

ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

(現)第四百十一條第二項 若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

同上

第四百十八條 溢水セシメテ前二條ニ記載シタル以外ノ物ニ損害ヲ生セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃鐵坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

同上

第四百十九條 第四百十六條第四百十七條ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ設定シ又ハ貸與シ若クハ保險ニ付シタルモノニ溢水セシメタルトキハ他人ノ物ニ溢水セシメタル者ノ刑ニ同シ

同上

第四百十條 水害ノ際防水用ノ物件ヲ隱匿又ハ毀壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

同上

第四百十一條 第四百十六條乃至第四百十條ノ罪ヲ犯シ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科スルコトヲ得一年以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

過失溢水

第四百十二條 過失ニ因リ第四百十六條乃至第四百十九條ニ記載シタル物ニ溢水セシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

水利妨害

第四百十三條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害トナル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下

第二編 罪名 第六章 靜謐ヲ害スル罪 第四節 溢水及ヒ水利ニ關スル罪 一七九

第五節 往來通信ヲ妨害スル罪

○現行法ノ不備ヲ補ヒタルコト

現行刑法ニ於テハ道路、橋梁等ノ損壞シテ往來ヲ妨害シタル場合ノミヲ規定スルニ過キスト雖トモ其他道路、橋梁等ヲ壅塞シテ往來ヲ妨害スル場合モ亦等シク處罰セサル可カラサルカ故ニ草案ニ於テハ是等ノモノヲ包含セシメタリ(第五百五十四條)

又瀛車ノ往來ヲ妨害スル方法ハ現行法ニ於ケルカ如ク鐵道及ヒ其標識ノ損壞又ハ危險ナル障礙ヲ爲スニ止マラス詐欺ノ標識ヲ點示スルカ如キ場合アルヲ以テ草案ニ於テハ是等ノモノヲ罰センカ爲メ鐵道

又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ト改メタリ(第五百五十六條)

又現行刑法ニ於テハ衝突等ニ因テ船舶ヲ覆没スル罪ヲ以テ財産ニ對スル罪ノ中ニ規定シタレトモ畢竟往來ヲ妨害スルモノニ外ナラサルカ故ニ草案ハ之ヲ本節中ニ規定シ併セテ瀛車電車ニモ適用スルコト、爲シタリ(第五百五十七條)

又現行刑法ニ於テハ郵便ニ付テハ妨害ノ方法ヲ偽計、威力ノ二者ニ限リ電信ノ妨害ニ付テハ器械、柱木及ヒ條線ノ損壞ニ限リタルヲ以テ此以外ノ方法ヲ以テ妨害シタル者ハ之ヲ刑法上ノ犯罪トシテ罰スルコトヲ得ス例ヘハ郵便箱ヲ破毀シ若クハ電信配達人ニ對シ偽計、威力ヲ加ヘテ之ヲ妨害スルカ如キ是ナリ幸ニ郵便條例及ヒ電信條例ノ存スルアリテ是等ノ缺點ヲ補ヘルヲ以テ實際上ニハ不都合ヲ生スルコト

ナカル可シト雖トモ同一性質ノ犯罪ヲ別種ノ法律ニ於テ規定スルハ其當ヲ得タルモノニ非サルカ故ニ草案ニ於テハ改正ヲ加ヘタリ(第六十二條)

往來妨害

第一百五十四條 公共ノ用ニ供スル陸路又ハ水路ヲ損壞シ又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第一百五十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(現)第六十八條 第六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ嚴

承前

鐵道船舶危險

打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第一百五十六條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ瀛車又ハ電車往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ船舶往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

(現)第六十五條 瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

(現)第六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第一百五十七條 瀛車又ハ電車ヲ顛覆シ又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

瀛車船舶顛覆

同上

同上

同上

過失

船舶ヲ覆没シ又ハ破壊シタル者亦同シ

第百五十八條 第百五十六條ノ罪ヲ犯シ因テ瀛車又ハ電車ノ顛覆破壊又ハ船舶ノ覆没破壊ヲ致シタル者亦前條ノ刑ニ同シ

(現)第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ瀛車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第百六十條 第百五十四條第百五十六條及ヒ第百五十七條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(現)第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百六十一條 第百五十六條第百五十七條ニ掲ケタル行爲過失ニ出

交通妨害

タルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十二條 郵便、電信、電話ノ用ニ供スル物件ヲ毀損シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其交通ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ

(現)第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第六節 住所ヲ侵入罪

○現行法ノ不備ヲ補ヒタルコト

現行刑法ニ於テハ故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ管守シタル建造物ニ侵入シタル場合ノミテ規定スルニ止マリ最初訪問ノ當時ニハ正當ノ理由アリタルモ請求ヲ受ケテ退去セサル場合ニ及ハス又船舶ハ河海ニ浮ヘル一ノ住所ニシテ陸上ニ建設セル邸宅等ト取テ異ナルコトナキニ現行法ニ於テハ之ニ侵入シタル場合ヲ規定セス故ニ草案ニ於テハ總テ是等ノ缺點ヲ補ヘリ(第六十三條)
又此罪ハ竊盜又ハ強盜ヲ爲スノ目的ヲ以テ犯ス者其多キニ居ル然ルニ之ヲ竊盜若クハ強盜トシテ處罰スルコトヲ得ルニハ少クモ其實行ニ著手シタル後ナラサル可カラス故ニ若シ其目的ヲ達セス單ニ侵入

ノ所爲アリシニ止マルトキハ固ト豫備ノ所爲タルニ過キサルヲ以テ法律ノ原則上之ヲ盜罪トシテ處罰スルコトヲ得ス單純ノ侵入罪ヲ以テ論セサル可カラス是レ甚タ寛ニ失スルカ故ニ草案ニ於テハ此場合ヲ重ク罰スルコト、爲シタリ(第六十四條)

住所侵害

第六十三條 故ナク人ノ住居シ又ハ看守シタル邸宅建造物又ハ船

舶内ニ侵入シ又ハ請求ヲ受ケテ退去セサル者ハ一年以下ノ懲役又

ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

左ニ記載シタル情狀アルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

- 一 夜間ナルトキ
- 二 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キタルトキ
- 三 兇器ヲ携帯シタルトキ

四 暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキ
五 二人以上ナルトキ

(現)第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル
建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ左ニ記載シタル所爲アルトキハ一等ヲ加フ

- 一、門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時
- 二、兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時
- 三、暴行ヲ爲シテ入りタル時
- 四、二人以上ニテ入りタル時

(現)第七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル
建造物ニ入りタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第百六十四條 竊盜又ハ強盜ヲ爲スノ目的ヲ以テ前條ノ罪ヲ犯シタ
ル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十五條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所又ハ皇陵内ニ侵入シタル

同上 同上

者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第七十三條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者
ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第百六十六條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百六十七條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第七節 秘密ヲ侵ス罪

○秘密ヲ侵ス罪ヲ設ケタルコト

本節ハ人ノ信書其他ノ秘密ヲ侵ス罪ト現行刑法ニ於テ誣告及ヒ誹毀
ノ罪中ニ規定シタル職業ニ因テ知り得タル秘密ヲ漏告スル罪ト併
セ規定シタルモノナリ蓋シ信書ノ秘密ハ憲法ノ保障スル所ナリト雖

同上 同上

トモ本法中規定スル所ナキトキハ憲法ノ保障モ其實ナキニ至ルヲ以テ草案ニ於テハ信書ヲ開披シ若クハ隱匿シタル者ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタリ又信書ニ非サルモ秘密ノ書類ナルトキハ其害ノ生スルコト敢テ信書ノ秘密ヲ侵シタル者ト擇フ所ナキヲ以テ是レ亦處罰スルコト、爲シタリ(第六十八條)

秘密書類開披

秘密漏洩

第六十八條 故ナク人ノ信書其他秘密ノ書類ヲ開披シ又ハ隱匿シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十九條 醫師、產婆、藥劑師、辯護士、公證人、神職、僧侶其職業ニ於テ委託ヲ受ケタルコトニ因リ知り得タル人ノ秘密ヲ漏洩シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但官署ニ對スル陳述ハ此限ニ在ラス

親告罪

(現)第三百六十條 醫師、藥劑師、穩婆又ハ代言人、辯護人、代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知り得タル陰私ヲ漏洩シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第七十條 本節ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

(現)第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親族ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第七章 衛生ニ關スル罪

第一節 阿片煙ニ關スル罪

○刑ヲ輕クシタルコト

第二編 罪名 第七章 衛生ニ關スル罪 第一節 阿片煙ニ關スル罪

阿片煙ノ人身ニ害アルコト言テ俟タス且ツ一度之ヲ吸食スルトキハ終生其味ヲ忘ル、コト能ハサルモノナレハ之ヲ吸食スルノ習慣ヲ生スルトキハ容易ニ之ヲ防禦スルコト能ハサルヲ以テ之カ製造輸入販賣ヲ爲スカ如キ其禍害ノ及フ所一層大ナルモノハ特ニ之ヲ嚴罰シ以テ其未タ萌芽セサルニ當リ之ヲ芟除セサル可カラサルハ固ヨリ言テ誤タサル所ナレトモ現行法ニ於ケルカ如ク有期徒刑若クハ輕懲役ニ處スルハ甚タ酷ニ失スルノミナラス他ノ健康ヲ害スル罪ニ在テハ其最モ重キモノモ僅々數年ノ自由刑ヲ科スルニ止マルニ此罪ニ付テノミ獨リ重ク罰スルハ其權衡ヲ失フコト大ナルヲ以テ草案ニ於テハ大ニ其刑ヲ輕クシタリ

阿片煙罪

第一百七十一條 阿片煙ヲ輸入シ製造シ又ハ販賣スル者ハ五年以下ノ

同上

懲役ニ處ス

(現)第二百三十七條 阿片煙ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第一百七十二條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入シ製造シ又ハ販賣スル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第二百三十八條 阿片煙ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

同上

第一百七十三條 稅關官吏阿片煙又ハ其器具ノ輸入ヲ許シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第二百三十九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片煙及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

同上

第一百七十四條 阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第二百四十條 阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ
輕懲役ニ處ス

ハヲ引誘シテ阿片煙ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第七十五條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第二百四十一條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ一年以上三年以下ノ重懲
罰ニ處ス

第七十六條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所有シ若クハ所持シ
タル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第二百四十二條 阿片煙及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者
ハ一年以上一年以下ノ重懲罰ニ處ス

第七十七條 本節ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ハ監視
ニ付ス

第七十八條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

同上

同上

同上

同上

第二節 飲料水及ヒ飲食物ニ關スル罪

○現行法ノ不備ヲ補ヒタルコト

人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シテ之ヲ用フルト能ハサルニ至ラシメ
若クハ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ一家一口ノ用ニ供スルモ
ノト公衆ノ用ニ供スルモノトテ問ハス之ヲ罰セサル可カラスト雖ト
モ現行法ニ於テハ飲料水ニ關スル罪ヲ以テ一般ノ健康ヲ害スル罪ト
シテ規定シタルカ故ニ一家數口ノ專用ニ屬スル井水ヲ汚穢スルモ之
ヲ罰スルコトヲ得サルヤノ疑ヲ生スルノミナラス假ニ此區別ヲシト
スルモ一家一口ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シタル者ト公衆ノ用ニ供
スル淨水ヲ汚穢シタル者トハ其危險ノ波及スル所大ニ異ナルヲ以テ
之ヲ同一ニ論スルハ決シテ其當ヲ得タルモノニ非サルカ故ニ草案ニ

第二編 罪名 第七章 衛生ニ關スル罪 第二節 飲料水及ヒ飲食物ニ關スル罪 一九五

於テハ明ニ之ヲ區別シ水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ係ルトキハ之ヲ重ク罰スルコト、爲シタリ(第百七十九條乃至第百八十二條)
又公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞シ又ハ壅塞スルカ如キハ其害ヲ生スルコト飲料水ヲ汚穢シ若クハ人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ト取テ擇フ所ナキノミナラス却テ其危險大ナルモノナレハ之ヲ不問ニ付スルノ理由ナキヲ以テ草案ニ於テハ之ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタリ(第百八十三條)

飲料水汚穢

第百七十九條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

水道汚穢

(現)第百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第百八十條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

飲料水ニ毒物混入

第百八十一條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
(現)第百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

入水道ニ毒物混入

第百八十二條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ

第二編 罪名 第七章 衛生ニ關スル罪 第二節 飲料水及ヒ飲食物ニ關スル罪 一九七

水道損壞

處ス

第百八十三條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞シ又ハ壅塞シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス因テ溢水セシメタル者ハ溢水ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

飲食物ニ有害品混和

第百八十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ飲食物ニ混和シテ販賣スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

疾病致死

第百八十五條 第百七十九條第百八十條第百八十一條第百八十四條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(現)第百四十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(現)第百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病ノ豫防ニ關スル罪

○現行法ノ不備ヲ補ヒタル

現行刑法ニ於テハ傳染病ノ豫防ニ關スル罪トシテ規定スル所ハ規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者及ヒ流行地方ヨリ他處ニ出テタル者ニ止マルヲ以テ碇舶中傳染病ヲ發シタル船舶ヨリ上陸シ又ハ陸地若シクハ他ノ船舶ト交通シ或ハ船舶ヲ進航又ハ碇舶セシメタル者及ヒ流行地ヨリ物件ヲ他處ニ送致スル場合ノ如キ等シク病毒傳播ノ媒介ト爲ルノ恐アリテ一般衛生上ノ危険大ナルモノアルモ之ヲ罰スルコトヲ得サルハ缺點ナルヲ以テ草案

ニ於テハ之ヲ補充シタリ(第百八十六條、第百八十七條及第百八十八條)

傳染病ニ關スル罪

第百八十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル一般ノ規則ニ違背シテ艦船ヨリ上陸シ又ハ陸地若クハ他艦ノ船ト交通シ又ハ物件ノ陸揚ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
艦船ノ長又ハ其職務ヲ行フ者自ラ前項ノ罪ヲ犯シ又ハ人ヲシテ之ヲ犯サシメ若クハ人ノ之ヲ犯スコトヲ知リテ制セサル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ艦船ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
(現)第百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ

同上

同上

同上

制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第百八十七條 艦船ノ長又ハ其職務ヲ行フ者傳染病豫防ノ爲メ設ケタル一般ノ規則ニ違背シテ艦船ヲ進航又ハ碇泊セシメタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十八條 前二條ノ外傳染病豫防ノ爲メ設ケタル一般ノ規則ニ違背シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條 獸類ノ傳染病豫防ノ爲メ設ケタル一般ノ規則ニ違背シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓

第二編 罪名 第七章 衛生ニ關スル罪 第三節 傳染病ノ豫防ニ關スル罪 二〇一

同上

以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 傳染病患ノ診察又ハ其病毒ノ検査ヲ命セラレタル醫師故ナク之ヲ肯セサルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
獸類傳染病ノ診察又ハ其病毒ノ検査ヲ命セラレタル醫師故ナク之ヲ肯セサルトキ亦同シ

(現)第九十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第九十一條 允許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

無免許醫

同上

(現)第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十二條 允許ヲ得スシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八章 信用ヲ害スル罪

第一節 通貨偽造ノ罪

○通貨偽造ノ罪ニ關スル規定ヲ改メタルコト
現行刑法ニ於テハ通貨ヲ偽造シテ既ニ之ヲ行使シタ者ト未タ之ヲ行使セサル者トヲ區別シテ別條ニ規定シタリ蓋シ貨幣ハ社會ノ流通物ニシテ日ニ數十百人ノ手ニ轉輾スルモノナレハ若シ之ヲ偽造シテ行使スル者アルトキハ實ニ其偽造ノ貨幣ヲ真正ノモノトシテ受取り

タル一人ヲ害スルノミナラス其害ノ波及スル所際限ナク金錢授受ノ際一々之ヲ點檢セサル可カラサル煩雜ヲ來シ大ニ商業其他社會全體ノ取引上ニ妨害ヲ與ヘ一般ノ信用ヲ害スルニ至ルモ未タ之ヲ行使セサル者ハ單ニ政府ノ貨幣製造權ヲ侵犯スルニ止マルカ故ニ既ニ之ヲ行使シタル者ト同一ニ論スルハ苛酷ニ失スルヲ以テ之ヲ斟酌シテ其刑ヲ輕クセンカ爲メニ依ルナル可シ

立法者ノ意固ヨリ善シ蓋シ多クノ場合ニ於テハ既ニ行使シタルトキハ其害多ク未タ行使セサルトキハ其害少シト雖トモ必スシモ斯ク斷定スルコト能サハル場合アルヲ奈何セン例ヘハ拾錢銀貨一枚ヲ偽造シテ既ニ行使シタル者ト數百枚ノ偽造已ニ成テ未タ行使セサル者トハ孰レヲ以テ重シトシ輕シトス可キ乎危險ノ大ナルコト後者ニ在ルハ蓋シ何人ト雖トモ異議ヲ唱フル者ナカル可シ然ルニ現行刑法ニ於

ケルカ如ク既行使ノモノト未行使ノモノト劃然區別スルトキハ其情ノ輕キ前者ハ無期徒刑ニ處セラレ危險ノ大ナル後者ハ一等ヲ減シ有期徒刑ニ處セラル、ニ過キス幸ニ酌量減刑ノ制アルカ故ニ實際ニ於テハ不都合ヲ生スルコトナカル可シト雖トモ法律上ニ於ケル規定トシテハ權衡ヲ失フコト甚シト謂ハサル可カラス加之一且偽造成リタル以上ハ何時之ヲ行使スルモ自由ナル地位ニ在ルモノニシテ其危險實ニ測リ知ル可カラサルモノアルカ故ニ草案ニ於テハ是等ノ區別ヲ廢シ行使シタルト否トヲ問ハサルコト、爲セリ

又現行刑法ニ於テハ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シタルモノト銅貨ヲ偽造シタル者トハ大ニ其刑ヲ異ニスト雖トモ是レ亦一概ニ其罪質ノ輕重ヲ斷定スルコト能ハサルヲ以テ草案ニ於テハ此區別ヲ廢シタリ

又現行刑法ニ於テハ偽造ト變造トヲ區別シ大ニ其刑ヲ異ニセリ是レ

偽造ハ新ニ正貨ニ賈セテ之ヲ造出スルモノナレハ政府ノ貨幣製造權ヲ全ク侵犯スルノミナラス其製造ハ概シテ器械ノ力ニ依ルヲ以テ其數多ク隨テ社會ニ危險ヲ及ホスコト大ナルカ故ニ之ヲ重ク罰スルノ必要アルモ之ニ反シテ變造ハ既ニ現存スル正貨ノ價格量目ヲ増減スルニ過キサカ故ニ偽造ニ於ケルカ如ク政府ノ貨幣製造權ヲ全ク侵犯スルモノニ非ス且多クハ之ヲ増減スルニ手工ニ依ルモノナレハ其數少ク隨テ其害亦小ナルカ故ニ之ヲ嚴罰スルノ必要ナシト認メタルニ因ルナラント雖トモ亦他ノ一面ヨリ之ヲ觀ルトキハ變造必スシモ其害少シト謂フコトヲ得サル場合アリ即チ偽造ノ場合ニ於テハ其形狀精粗等ニ注意スレハ其偽造タルコトヲ發見スルコトヲ得ヘキモノアルモ之ニ反シテ變造ノ場合ニ於テ其貨幣ノ基本ト爲リタルモノハ正貨ナルヲ以テ其變造タルコトヲ發見スルコト難キ場合モアルノミ

貨幣偽造

ナラス是等ハ裁判官ノ認定ニ委スルヲ以テ却テ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘキカ故ニ草案ニ於テハ總テ同一ニ論スルコト、爲シタリ(第百九十三條、第百九十四條)

第百九十三條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ偽造

シ又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

(現)第百八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者

ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

(現)第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造

シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

(現)第百八十五條 內國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

外國貨幣偽造

第二百九十四條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

(現)第八十三條 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百九十五條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣、兌換券又ハ外國ノ金銀貨ヲ輸入シタル者ハ偽造、變造ノ刑ニ同シ

(現)第八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第二百九十六條 偽造變造ノ貨幣、紙幣、兌換券又ハ外國ノ金銀貨ヲ行使スル目的ヲ以テ之ヲ取得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處シ之ヲ行使シタルモノハ十年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ收受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

偽造貨幣輸入

行使、取得

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第二百九十七條 前四條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百九十八條 貨幣、紙幣、兌換券又ハ外國ノ金銀貨ヲ取得シタル後偽造又ハ變造ナルコトヲ知り之ヲ行使シタル者ハ其價額三倍以下ノ罰金ニ處ス但一圓以下ニ下スコトヲ得ス

(現)第九十三條 貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知り之ヲ行使シタル者ハ其價額二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

偽造準備

第二百九十九條 第二百九十三條、第二百九十四條ニ記載シタル偽造、變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ其器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ

減ス

二一〇

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第二百條 本節ニ記載シタル罪ヲ犯シ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ一年以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス一年未滿ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第二節 文書偽造ノ罪

○官文書偽造ト私文書偽造ヲ一節中ニ規定シ

タルコト

現行刑法ニ於テハ官文書偽造ノ罪ト私文書偽造ノ罪トニ付キ二節ヲ

設ク之ヲ各別ニ規定シタリト雖トモ凡ソ偽造ノ罪ハ文書ノ性質種類如何ニ因リ罪ノ輕重ヲ異ニス可キモ官ノ文書ナルト私ノ文書ナルトニ因テ罪ノ性質ヲ異ニスヘ可キ理ナキヲ以テ草案ニ於テハ此區別ヲ廢セリ

○偽造文書ニ偽印ノ使用若クハ眞印ノ盜捺ヲ

要スルコト

凡ソ文書偽造罪ノ成立スルニハ其文書タル害ノ生シ若クハ生シ得ヘキ性質ヲ有スルモノタラサル可カラス若シ否ラスシテ到底害ノ生シ得ヘカラサルモノナルトキハ所謂不能犯ニシテ文書偽造罪トシテ論ス可キモノニ非ス蓋シ法律カ文書偽造ノ行爲ヲ罰スル所以ノモノハ唯有形ニ虛偽ノ文書ヲ作りタルノ點ニ非スシテ寧ロ其文書ニ信用ヲ措カシメ以テ他ヲ害スルノ點ニアレハ則チ其文書ニシテ到底害ノ生

シ得可キモノナラサルトキハ之ヲ罰スルノ理由ナカル可シ夫ノ行政
 司法及ヒ立法上ニ於テ官府ノ作製ニ係ル百般ノ文書ニ信用アルハ即
 チ官印ノ押捺アルカ爲メニ外ナラス若シ其印章ノ押捺ナキトキハ一
 ノ反古紙タルニ過キサルノミ一私人ノ權利義務ニ關スル文書ニ於ケ
 ルモ亦然リ然ルニ現行刑法ニ於テ偽印ノ使用又ハ眞印ノ盜捺ヲ問ハ
 ス之ヲ罰スルハ決シテ當テ得タルモノト謂フ可カラス故ニ草案ニ於
 テハ詔書ナルト官文書ナルト私文書ナルトヲ問ハス偽造罪ニ付テハ
 偽造シタル印章ヲ使用シ又ハ眞印ヲ不正ニ使用シタルコトヲ以テ成
 立ノ要素ト爲シ又文書ノ増減變換即チ所謂變造罪ニ付テハ印章ヲ摺
 捺シタル文書ナルコトヲ要スルコト、爲シタリ
 序次茲ニ一言センニ草案第二百一條、第二百二條及ヒ第二百四條等ニ
 於テ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ云々トハ現行法第九十七條第

二百八條ニ於ケル印影ノ盜用ト同一義ニシテ印章ノ所在ニ付テ之ヲ
 押捺シ而シテ其印章ハ元トノ儘ニ存シ置ク場合、眞正ノ印ヲ押捺シテ
 ル文書ヲ切抜キ之ヲ他ニ貼附スル場合、又ハ化學作用ニ依リテ一ノ文
 書ヨリ他ノ文書ニ吸取セシムル場合等ヲ包含スルモノトス

○偽造變造ノ所爲ノミヲ以テ罪ト爲シタルコト

現行刑法ニ於テハ詔書ニ付テハ其行使ヲ待タス偽造變造シタルノミ
 ニテ其罪成立スルモノト爲シタルモ他ノ文書ニ付テハ單ニ偽造變造
 シタルノミニテハ未タ其罪ヲ構成セス必ス之ヲ行使スルコトヲ要ス
 ト爲シタリ蓋シ立法者ハ偽造變造シタルノミニテハ未タ危險ヲ生セ
 スト思惟シタルニ因ルナラント雖トモ既ニ行使ノ目的ヲ以テ偽造變
 造ヲ爲シタルトキハ何時之ヲ行使スルモ自由ナル地位ニ在ルノミナ

ラス早晚之ヲ行使スルハ豫期シ得可キコトニシテ未タ行使ナキヲ理由トシテ之ヲ不問ニ付スルハ其危険實ニ測ル可カラサルカ故ニ草案ニ於テハ總テ行使ヲ待タス偽造變造ノ所爲ノミヲ以テ其罪成立スルモノト爲セリ(第二百一條第二百二條第二百四條)

○公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ヲ

罰スルノ規定ヲ設ケタルコト

現行刑法ニ於テハ官吏公吏ヲ欺キテ虛偽ノ公證ヲ爲サシメ若クハ不實ノ登記ヲ爲サシメタル者ヲ處罰スルノ規定ナシ是レ一ノ缺點ナリト謂ハサル可カラス蓋シ是等ノ所爲ハ自ラ其文書ヲ偽造變造スルト其所爲及ヒ其害ヲ生ス可キノ點ニ於テ敢テ大差ナケレハナリ論者或ハ是等ノ所爲ハ自ラ筆ヲ執リテ其官文書ヲ偽造シタルニ非ラスト雖トモ詐偽ノ陳述ヲ爲シテ官吏ヲ欺キ以テ虛偽ノ記載ヲ爲サシメタル

者ナレハ即チ其官吏ヲ器械ニ供シテ其犯罪ヲ遂ケタルモノナルカ故ニ假令明文ナキモ官文書ノ偽造トシテ罰スルコトヲ得ヘシト云フモノアレトモ到底牽強附會ノ説タルヲ免レス是レ草案ニ於テ特ニ此場合ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタル所以ナリ(第二百五條)

○疾病證書偽造ノ罪ニ關スル規定ヲ改メタル

コト

現行刑法ニ於テハ特ニ疾病證書ヲ偽造スル罪ト題シ其第二百十五條及ヒ第二百十六條ヲ以テ其場合ヲ規定シタリ然レトモ疾病證書ハ他ニ一節ヲ設ケテ規定スルノ必要ナキノミナラス偽造ノ目的ヲ定メテ公務ヲ免カル可キ爲メ云々ト制限シタルヲ以テ此以外ノ目的ニテ疾病證書ヲ偽造行使スルモ之ヲ罰スルコトヲ得ス又死亡證書ヲ偽造スルカ如キハ其害決シテ疾病證書ノ偽造ニ讓ラサル可キニ疾病證書ニ

限リタルヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サルハ缺點タルヲ免レサルカ故ニ草案ニ於テハ醫師官署又ハ公署ニ提出ス可キ診斷書若クハ死亡書ニ詐欺ノ記載ヲ爲シタルトキハ云々ト規定シ以テ是等ノ缺點ヲ補正シタリ(第二百六條)

○知情行使ノ罪ヲ設ケタルコト

現行刑法ニ於テハ官私ノ文書ヲ偽造變造シテ行使シタル者ヲ罰スルニ止マリ其偽造變造ニ干與セス唯其情ヲ知テ之ヲ行使シタル者ヲ罰スルノ明文ナシト雖トモ此所爲タル亦害ヲ生シ若クハ生シ得ヘキモノナレハ之ヲ不問ニ措ク可キモノニ非サルカ故ニ草案ニ於テハ之ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタリ(第二百七條)

○官文書毀棄ノ罪ヲ財物毀棄ノ罪ト爲シタル

コト

現行刑法ニ於テハ犯罪ヲ別テ公益ニ關スルモノ私益ニ關スルモノト爲シタル結果同シク文書ノ毀棄ナルモ官文書ニ對スルモノハ信用ヲ害スル罪ノ中ニ規定シ私文書ニ對スルモノハ財産ニ對スル罪ノ中ニ規定シタリ然レトモ文書ノ毀棄ト偽造トハ其性質大ニ異ナルノミナラス既ニ公罪私罪ノ區別ヲ廢シタル上ハ官文書ノ毀棄ヲ財産毀棄ノ罪中ニ規定スルモ不可ナキヲ以テ草案ニ於テハ官文書ノ毀棄ニ關スル規定ハ之ヲ財物毀棄ノ罪中ニ移シタリ

第二百一條 行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル御璽國璽若クハ御名ヲ使

用シ又ハ御璽國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ

偽造シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ御璽國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他

ノ文書ヲ増減、變換シタル者亦同シ

〔現〕第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減、變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

官文書偽造

第二百二條 行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル官印、公印又ハ官吏、公吏ノ印章、署名ヲ使用シ又ハ官印、公印若クハ官吏、公吏ノ印章、署名ヲ不正ニ使用シテ官文書又ハ公書ヲ偽造シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ官印、公印ヲ押捺シ又ハ官吏、公吏ノ捺印、署名シタル官文書、公文書ヲ増減、變換シタル者亦同シ

前二項ノ外行使ノ目的ヲ以テ官吏、公吏ノ作ル可キ官文書、公文書ヲ偽造シ又ハ官文書、公文書ヲ増減、變換シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔現〕第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減、變換シテ行使シタル者ハ懲

懲役ニ處ス

官吏ノ偽造

第二百三條 官吏、公吏其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ詐偽ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ文書ヲ増減、變換シタル者ハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

〔現〕第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減、變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

私文書偽造

第二百四條 行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ又ハ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ權利又ハ義務ニ關スル文書ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル文書ニシテ權利又ハ義務ニ關スルモノヲ増減、變換シタル者亦同シ

〔現〕第二十條 賈買、貸借、贈遺、交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ

又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

公書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者

第二百五條 官吏、公吏ヲ欺キ戶籍簿、登記簿、其他權利又ハ義務ニ關スル公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

醫師ト詐僞ノ記載

第二百六條 醫師、官署又ハ公署ニ提出ス可キ診斷書若クハ死亡書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第二百五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分

タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

(現)第二百六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

偽造文書ノ行使者

第二百七條 第二百一條乃至第二百六條ニ記載シタル文書ヲ行使シタル者ハ其文書ヲ作り又ハ増減變換シタル者若クハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百八條 本節ノ罪ヲ犯シ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科スルコトヲ得一年以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第三節 有價券偽造ノ罪

○現行法ノ不備ヲ補ヒタルコト

現行刑法ニ於テハ有價證券偽造ノ罪ヲ私文書偽造ノ罪中ニ規定シタルモ有價證券ハ他ノ私文書ト大ニ性質ヲ異ニスル所アルヲ以テ草案ニ於テハ特ニ一節ヲ設ケタリ而シテ現行法ハ公債證書ノ偽造ヲ官文書偽造罪中ニ規定シタルモ是レ亦有價證券ニ外ナラサルカ故ニ草案ニ於テハ本節中ニ規定シタリ又現行法ニ於テ他人ノ偽造變造シタル有價證券ヲ行使シタル者ヲ罰スルノ規定ナキハ缺點ナルヲ以テ草案ハ之ヲ補ヘリ(第二百九條)

有價證券偽造

第二百九條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書會社ノ株券手形切手其他裏

書ヲ以テ賣買シ又ハ金額ト交換ス可キ證券ヲ偽造シ又ハ増減、換變シ若クハ詐偽ノ裏書ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ證書、株券、手形、切手又ハ證券ヲ行使シタル者亦同シ
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(現)第二百四條 公債證書、地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減、換變シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

(現)第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證券若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減、換變シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 前條ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス

第四節 印章偽造ノ罪

○署名ヲ偽造シ又ハ不正ニ使用シタル者ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタルコト

署名トハ所謂華押ヲ指スモノニシテ此華押アルトキハ文書ニ信用ヲ生セシムルコト敢テ他ノ印章ノ押捺アルト異ナル所ナキニ現行法ニ於テ之ヲ偽造シ又ハ不正ニ使用シタル者ヲ罰スルノ規定ナキハ缺點タルヲ免レサルカ故ニ草案ニ於テハ之ヲ補ヘリ(第百十一條第百十二條及第百十四條)

○影蹟ノ盗用ヲ印願偽造ト同一ニ罰スルコト、爲シタルコト

現行刑法ニ於テハ影蹟ノ盗用ヲ以テ印願偽造ノ既ニ成就セシ場合ノ

如ク之ヲ度々行使スルノ恐ナキモノトシ偽造ノ刑ニ照シ一等ヲ減スルコト、爲セリ然レトモ一面ヨリ之ヲ觀ルトキハ偽造ノ場合ニ於テハ多クハ其形狀精粗等ニ少シク注意ヲ加フレハ其眞偽ヲ發見スルコトヲ得ヘキモ盗用ナルトキハ其眞物ヲ押捺シタルモノナレハ其盗用タルコトヲ發見スルコト難キカ故ニ偽造ト同一ニ處罰スルヲ以テ相當ナリトス是レ草案ニ於テ不正ニ使用シタル者亦同シト規定シタル所以ナリ第百十一條第百十二條及ヒ第百十四條

○郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手等ノ偽造ヲ罪ト爲シタルコト

現行刑法ニ於テハ官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造スル罪ヲ定ムルニ過キサレモ輒近諸外國ト郵便聯合條約ヲ締結シ而シテ其條約ヲ結ヒタル各國ニ於テハ既ニ其條約ニ因テ外國政

府ノ發行スル郵便切手、封皮等ヲ偽造スル者ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタルヲ以テ我國ニ於テモ特ニ此罪ヲ定メテ以テ彼我ノ規定ニ付キ權衡ヲ得セシメサル可カラス故ニ草案ニ於テハ是ニ關スル罪ヲ設ケ併セテ現行法第九十八條ノ不備ヲ補ヒタリ(第二百十五條)

○印紙及ヒ郵便切手ノ再貼用ノ罪ヲ刪除シタルコト

現行刑法第九十九條ニ規定スル再貼用ノ罪ハ元來稅則ニ規定ス可キ性質ノモノナルノミナラス之ヲ刑法ニ規定スルトキハ一所爲ニ對シテ二刑ヲ科スルコト、ナリ且ツ實際上不都合ヲ生スルコト尠カラサルヲ以テ草案ニ於テハ之ヲ刪除シタリ

御璽偽造

第二百一十一條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者

ハ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

(現)第九十四條 御璽、國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第二百一十二條 行使ノ目的ヲ以テ官印、公印又ハ官吏、公吏ノ印章、署名ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

官印、公印又ハ官吏、公吏ノ印章、署名ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

(現)第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

第二百一十三條 行使ノ目的ヲ以テ官署、公署ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

官署、公署ノ記號ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

(現)第九十六條 國產物商品等ニ押用スル官ノ記號、印章ヲ偽造シ又ハ其

第二編 罪名 第八章 信用ヲ害スル罪 第四節 印章偽造ノ罪

官印偽造

記號偽造

私印偽造

偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス
書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百十四條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章署名ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

(現)第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百十五條 行使ノ目的ヲ以テ官ヨリ發行スル各種ノ印紙手形用紙郵便切手封皮葉書帶紙ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス前項ニ記載シタル各紙ノ印紙手形用紙郵便切手封皮葉書帶紙ヲ行使シタル者亦同シ

印紙類偽造

(現)第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十六條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(現)第二百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

(現)第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十七條 本節ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

(現)第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

(現)第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 度量衡偽造ノ罪

度量衡偽造ノ所持

第二百十八條 定規ヲ増減シタル度量衡ヲ製造シ又ハ販賣スル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

營業ノ用ニ供スル目的ヲ以テ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號、印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(現)第二百二十八條 偽造、變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

(現)第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

同製造修覆販賣

第二百十九條 允許ヲ得スシテ度量衡ヲ製造シ修覆シ又ハ販賣スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

檢定ヲ受ケサル度量衡ヲ販賣スル者亦同シ

營業ノ用ニ供スル目的ヲ以テ檢定ヲ受ケサル度量衡ヲ所持シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六節 偽證ノ罪

○刑事裁判ト民事商事又ハ行政裁判トノ區別

ヲ廢シタルコト

現行刑法ニ於テハ刑事裁判ニ關シ偽證ヲ爲シタル者ト其他ノ裁判ニ

第二編 罪名 第八章 信用ヲ害スル罪 第五節 度量衡偽造ノ罪 第六節 偽證ノ罪

關シ偽證シタル者トテ區別シ其刑ヲ異ニシタルモ草案ニ於テハ此區別ヲ廢シテ總テ同一ノ刑ニ處スルコト、爲シタリ蓋シ偽證ノ罪ハ主トシテ裁判所ヲ錯誤ニ陥ラシメントスル所爲ヲ罰スルノ精神ニ出テタルモノナレハ苟クモ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル上ハ其裁判ノ刑事ナルト其他ノ裁判ナルトニ因テ刑ヲ異ニス可キノ理由アラサルノミナラス其刑事裁判ニ關スルモノハ重ク民事其他ノ裁判ニ關スルモノハ輕シト一概ニ斷言スルコト能ハサル場合アルヲ以テナリ(第二百二十條)

○曲庇ト陷害トノ區別ヲ廢シタルコト

現行刑法ニ於テハ被告人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ト陷害スル爲メ偽證シタル者トテ區別シテ曲庇ハ其刑輕キモ陷害ニ付テハ其刑ヲ重クシタリ蓋シ犯罪ノ事實ヲ掩蔽シ被告人ヲ曲庇セントスルハ固ヨリ善事ニ非スト雖トモ人ノ惡事ヲ蔽フハ人情ノ自然ナルヲ以テ道德

上ヨリ觀ルトキハ大ニ怨ス可キ點アルモ不實ノ事ヲ構造シテ人ヲ陷害セントスル如キ獐惡ノ意思ヲ有スル者ハ決シテ看過スルヲ得サルニ因ルナル可シト雖トモ是等ハ裁判官ノ認定ニ一任シ其刑ノ範圍内ニテ相當ノ處分ヲ爲サシメテ可ナルノミナラス此ノ如ク曲庇スル爲メ若クハ陷害スル爲メ云々ト判然規定スルトキハ若シ此以外ノ目的ニ出テタル者ハ之ヲ處罰スルコトヲ得サルニ至リ偽證罪制定ノ趣旨ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ草案ニ於テハ此區別ヲ廢シタリ(第二百二十條)

○偽證者ノ刑ニ輕重ノ差等ヲ設ケサルコト

現行刑法ニ於テハ重罪輕罪違警罪ノ區別ニ從テ偽證者ノ刑ニ輕重ノ差等ヲ設ケ且其法文ノ用語妥當ヲ缺ケルヲ以テ其所謂重罪、輕罪、違警罪トハ果シテ如何ナルモノナルヤ學者間ノ議論ノ種子ト爲リ或ハ犯

罪事件ノ事實ニ因テ區別ス可シト謂ヒ或ハ被告事件ノ訴名ニ因テ區別ス可シト論スル者アリ然レトモ事實ノ如何ハ訴訟ノ終局ヲ俟ツニ非サレハ之ヲ知ルコトヲ得サルヲ以テ第一説ニ據ルトキハ常ニ其訴訟ノ終局後ニ非サレハ偽證者ノ罪ヲ定ムルコトヲ得サルニ至ル第二説ニ據ルトキハ訴訟ノ結局如何ニ係ハラス偽證者ノ罪ヲ定ムルコトヲ得ルカ故ニ第一説ニ於ケルカ如ク裁判ノ進行ヲ阻害スルコトナシト雖トモ重罪事件トシテ審理スル場合ニ當リ偽證ヲ爲ストキハ假令其終局ニ於テ無罪ト爲ルモ尙ホ重罪ノ曲庇者トシテ之ヲ重罰シ之ニ反シ違輕罪事件トシテ審理スル場合ニ當リ偽證ヲ爲ストキハ假令其終局ニ於テ重罪ト爲ルモ單ニ違輕罪ノ曲庇者トシテ之ヲ輕ク罰セサル可カラサルカ如キ結果ヲ生ス蓋シ此説ハ現行法ノ解釋トシテハ其當ヲ得タルモノナランモ右述フルカ如キ短所アルヲ免カレサルカ故

ニ草案ニ於テハ總テ是等ノ區別ヲ廢シ而シテ別ニ其刑ノ範圍ヲ擴張シ自由ニ罪刑相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得セシメタリ(第二百二十條)

○反坐ノ法ヲ廢シタルコト

現行刑法ニ於テハ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタルトキハ特ニ其刑ヲ加重シテ偽證者ヲ反坐ノ刑ニ處スルコト、爲シタリ抑々反坐トハ被告人ノ處セラレタル刑ヲ其儘偽證者ニ科スルノ謂ナレハ古昔刑罰ノ復讎主義ニ基キタル時代ノ遺物ニシテ今日ニ於テ之ヲ保存ス可キモノニ非ス加之此處罰ノ方法タル實ニ奇怪ナル結果ヲ生スル場合アリ例ハ政事犯ノ被告事件ニ於テ被告人偽證ノ爲メニ自由刑ニ處セラレタルトキハ其偽證者ハ反坐ノ爲メ政事犯ノ刑ニ處セラレ定役ヲ免カル、ニ至リ常事犯ノ刑ト政事犯ノ刑トヲ區別シタル精神ニ背馳スル場合ヲ生スルヲ以テ草案ニ於テ

ハ總テ此反坐ノ刑ヲ廢シタリ(第二百二十條)

偽證

第二百二十條 司法裁判所、行政裁判所又ハ其他ノ裁判所ニ於テ宣誓シテ證人ト爲リタル者、虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

刑事ノ被告人偽證ノ爲メ死刑ニ處セラレタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

- (現)第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者、被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス
 - 一、重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 - 二、輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁

- 錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 三、違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

(現)第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

(現)第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

- 一、重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 二、輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 三、違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(現)第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス

(現)第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陥ル、ノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス
(現)第二百二十三條 民事、商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前自白シタルトキハ其刑ヲ減免スルコトヲ得

(現)第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

偽證自白

鑑定人通事虚偽ノ陳述

第二百二十二條 宣誓シテ鑑定人又ハ通事トナリタル者虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ依ル

(現)第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十三條 本節ノ罪ヲ犯シ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科スルコトヲ得



第七節 誣告ノ罪

○懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ不實ノ申告ヲ爲シタル者ヲ罰スルコト、爲シタルコト

現行刑法ニ於テハ刑法上犯罪ト爲ル可キ事實ヲ構造シ之ヲ相當官吏

ニ告訴發シタル者ヲ罰スルノ規定アリト雖トモ懲戒處分ヲ受ク可
キ事實ヲ構造シテ之ヲ其長官ニ申告シタル者ヲ罰スルノ規定ナキハ
缺點ト謂ハサル可カラス故ニ草案ニ於テハ之ヲ補ヘリ蓋シ犯罪ト爲
ル可キ事實ト懲戒處分ヲ受ク可キ事實トハ其制裁ニ寬嚴ノ別アリト
雖トモ人ヲ陷害シ官廳ノ事務ヲ妨害スルニ至テハ敢テ異ナル所ナク
レハナリ(第二百二十四條)

第二百二十四條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ
以テ不實ノ告訴發又ハ申告ヲ爲シタル者ハ第二百二十條、第二百
二十三條ノ例ニ依ル

(現)第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條
ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

誣告

同自白

(現)第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二
十一條、第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 誣告ヲ爲スト雖モ誣告シタル事件ノ裁判確定前誣
告者自白シタルトキハ其刑ヲ減免スルコトヲ得
行政官廳ニ於テ懲戒處分ヲ爲ス可キ事件ニ付キ其處分前自白シタ
ル者亦同シ

(現)第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於
テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第九章 風俗ヲ害スル罪

第一節 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

本節ハ現行刑法ニ於テ風俗ヲ害スル罪ノ中ニ規定シタル第二百五十

第二編 罪名 第九章 風俗ヲ害スル罪 第一節 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪 二四一

八條及ハ第二百五十九條ト身躰ニ對スル罪ノ中ニ規定シタル猥褻姦淫重婚ノ罪トヲ併セタルモノナリ蓋シ猥褻姦淫及ヒ重婚罪ノ直接ノ被害者ハ一人ナリト雖モ同時ニ社會ノ風俗ヲ害スルコト甚ナカラサルノミナラズ既ニ公罪私罪ノ區別ヲ廢シタル上ハ其直接ノ被害者ノ社會ナルト一人ナルトニ因テ之ヲ區別シテ別編ニ規定スルノ必要ナキヲ以テ草案ニ於テハ之ヲ一括シテ本節ニ規定シタリ

○姦淫罪ニ關スル規定ヲ改メタルコト

現行刑法ニ於テハ暴行脅迫ヲ以テ婦女ヲ姦淫シタル者ヲ強姦罪ト爲シ十二歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シ若クハ藥酒等ヲ用ヒテ婦女ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ヲ強姦罪ト爲シタルカ故ニ犯人ノ所爲ニ基カサル睡眠昏絶其他智覺精神ノ喪失ニ乘シテ婦女ヲ姦淫シタル者ノ如キ其婦女ヲ害スルコト取テ他ノ場合ニ讓ラサル

可シト雖モ之ヲ不問ニ付セサルヲ得サルノ不都合ヲ生シタルヲ以テ草案ニ於テハ之ヲ改メ婦女ノ智覺精神ノ喪失ハ犯人ノ所爲ニ出ツルト否トヲ區別セス總テ強姦ヲ以テ之ヲ論スルコト、爲シタリ(第二百二十九條)

又現行刑法ニ於テハ淫行ヲ勸誘媒合シタル者ノ罪ヲ定ムルニ當テ其被勸誘者ハ十六歳未滿ナルコトヲ要スルコト、爲シタルモ草案ニ於テハ其年齡ヲ制限セサルコト、爲シタリ然レトモ淫行ノ常習アル婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシムル者ノ如キハ風俗ヲ壞亂スルコト敢テ異ナル所ナシト雖トモ其婦女ヲ害スル點ニ至テハ決シテ同一ニ論ス可カラズ隨テ之ヲ刑法上ノ罪トシテ罰スルハ稍々酷ニ失スルヲ以テ是等ノ者ハ行政處分ニ委スルコト、爲シ唯營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ニ限り罰スルコト、爲シタリ

第二百三十三條

第二百二十六條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

(現)第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十七條 猥褻ノ圖書其他ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣スル者ハ亦前條ノ刑ニ同シ

本條ノ罰ヲ犯シタル者ニハ沒收例ヲ適用ス

(現)第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十九條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者亦同シ

婦女ノ精神病意識喪失又ハ抗拒不能ニ乘シテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

(現)第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス
藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

(現)第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス
第二編 罪名 第九章 風俗ヲ害スル罪 第一節 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪 二四五

ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

第二百三十條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十一條 第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

(現)第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二百三十二條 強姦ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

(現)第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癡篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第二百三十三條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

淫行勸誘

(現)第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

有夫姦

第二百三十四條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ
前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ

(現)第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ
此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ

重婚

第二百三十五條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第三百五十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルトキハ六月以下ノ懲役ニ處ス

第二編 罪名 第九章 風俗ヲ害スル罪 第一節 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪 二四七

上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 第二百二十八條、第二百二十九條及ヒ第二百三十二

條ノ罪ヲ犯シ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權
ヲ科ス

第一節 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

○賭博罪ニ關スル規定ヲ改メタルコト

現行刑法ニ於テハ競技者ノ優劣若クハ巧拙ニ因リテ勝敗ヲ決スルモノト全ク偶然ノ事ニ因リテ其輸贏ヲ決スルモノトテ論セス苟クモ財物ヲ賭シテ勝負事ヲ爲ス以上ハ孰レモ之ヲ罰スルコト、爲シタリ然レトモ夫ノ相撲若クハ碁、將碁ノ如キ其優劣若クハ巧拙ニ因リテ勝敗

ヲ決スルモノハ時ニ或ハ意外ノ結果ヲ見ルコトアリト雖モ其勝敗ノ分ル、所ハ畢竟競技者ノ優劣若クハ巧拙ニ基クモノナルカ故ニ之ヲ夫ノ骰子ヲ用ヒ骨牌ヲ弄スルカ如キ全ク偶然ノ事ノミニ因リテ勝敗ヲ決スルモノトハ決シテ同一ニ論ス可カラス故ニ草案ニ於テハ唯偶然ノ輸贏ニ關シ博戯ヲ爲シタル者及ヒ賭事ヲ爲シタル者ノミニ罰スルコトニ改メタリ(第二百三十七條)

又現行刑法ニ於テハ賭博罪ハ現行犯即チ現ニ之ヲ爲ス際又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルニ非サレハ之ヲ罰セサルモ既ニ賭博ヲ以テ風俗ヲ害シ惡慣ヲ養成スルモノト認メタル上ハ其發覺ノ日時ニ依テ罪ノ有無ヲ區別ス可キ理由ナキノミナラス後ニ至リ發覺シタル者ヲ不問ニ付スルトキハ賭博罪制定ノ趣旨ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ草案ニ於テハ此區別ヲ爲サス總テ之ヲ罰スルコト、爲シタリ(第二

○富籤ニ關スル規定ヲ補正シタルコト

富籤ハ賭博ト同シク射倖的ノ性質ヲ有シ偶然ノ利益ヲ僥倖スルモノナレハ亦社會ノ風俗ヲ害スルニ至ルヲ以テ之カ發賣等ヲ爲ス者ハ決シテ不問ニ付ス可キニ非スト雖モ其目的殖産興業若クハ貧民救助等有益ノ事業ニ在ルトキハ強チ之ヲ禁スルノ必要ナキヲ以テ草案ニ於テハ允許ヲ得スシテ私ニ富籤ヲ發賣シタル者ノミヲ罰スルコト、爲シタリ(第二百三十九條)

又現行刑法ニ於テハ富籤ノ發賣者ノミヲ罰スルニ止マリ其發賣ノ取次ヲ爲シタル者及ヒ購買者ヲ罰スルノ規定ナシ是レ法ノ缺點ナルカ故ニ明治十五年五月第二十四號ノ布告ヲ以テ其補綴ヲ爲シタルモ同種ノ罪ヲ一ハ布告ニ又一ハ刑法ニ規定スルハ其當ヲ得タルモノト云

フヲ得ス故ニ草案ニ於テハ之ヲ補正シタリ(第二百三十九條及ヒ第二百四十條)

賭博

第二百三十七條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物品ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

(現)第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス

賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

第二百三十八條 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

同上

博戯場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

(現)第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招縛シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

富籤

第二百三十九條 允許ヲ得スシテ富籤ヲ發賣シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

(現)第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

同上

第二百四十條 允許ヲ得スシテ發賣シタル富籤ヲ購賣シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十一條 本節ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ハ監視ニ付ス

神佛、不敬

第三節 神佛及ヒ死屍ニ關スル罪

第二百四十二條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第二百六十三條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二編 罪名 第九章 風俗ヲ害スル罪 第三節 神佛及ヒ死屍ニ關スル罪 二五三

死屍、毀棄

若シ既教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十三條 死體又ハ遺骨ヲ毀損シ若クハ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第二百四十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

墳墓發掘

第二百四十四條 墳墓ヲ發掘シ又ハ毀損シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

因テ死體又ハ遺骨ヲ露出遺棄若クハ毀損シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓

以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(現)第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十六條 允許ヲ得スシテ改葬ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第十章 官吏、公吏及ヒ議員ノ職務ニ

關スル罪

○官吏公益ヲ害スル罪及ヒ財産ニ對スル罪ヲ刪除シタルコト

現行刑法ニ於テハ官吏ノ職務ニ關スル罪ヲ別テ公益ヲ害スル罪、人民ニ對スル罪及ヒ財産ニ對スル罪ノ三節ト爲シタルモ草案ニ於テハ其

人民ニ對スル罪ノミヲ存シ他ハ皆之ヲ刪除シタリ蓋シ現行法ニ官吏
 公益ヲ害スル罪トシテ其第二百七十三條ニ規定シタル官吏其管掌ニ
 係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害スル云
 ヲノ事項ノ如キ今日之ヲ犯ス者ハ實際上恐クハ之ヲカル可シ何トナ
 レハ往時法律規則ノ發布アリタル際之ヲ揭示場ニ揭示シテ人民ニ知
 ラシムル場合ニ在テハ之ヲ設クルノ必要アリタリト雖モ現今ニ於テ
 ハ法律規則ノ公布式ハ官報等ニ登載スルニ在ルヲ以テ官報局等ノ官
 吏ニ非サレハ之ヲ犯スコトヲ得サルノミナラス縱シヤ之ヲ犯スモ其
 官吏ニ於テ何等ノ利益ナカル可クレハナリ但或ハ爲メニスル所アリ
 テ公布施行ヲ遅延シ又ハ他ノ公布施行ヲ妨害スル場合ナキニシモ非
 スト雖モ是等ハ懲戒法ニ依テ處分スルコトヲ得ルカ故ニ今日依然其
 規定ヲ存在セシムルノ必要ナクレハナリ

又現行法第二百七十四條ニ規定シタル地方ノ騷擾等ノ時ニ當リ之ヲ
 鎮撫ス可キ官吏カ故ラニ其處分ヲ爲サ、ル場合ノ如キハ其官吏ニシ
 テ若シ暴動者ト通謀シタルニ因ルトキハ其共犯トシテ論スルコトヲ
 得ヘク其否ヲサルモノハ懲戒處分ヲ加フルヲ以テ足ルカ故ニ刑法上
 ノ罪トシテ處罰スルヲ要セス又第二百七十五條ニ於ケル官吏規則ニ
 違背シテ商業ヲ爲シタル者ヲ罰スル規定ノ如キモ亦懲戒處分ニ委ヌ
 ルヲ以テ正當トスルカ故ニ草案ニ於テハ總テ是等ノ規定ヲ廢止シタ
 リ

次ニ財産ニ對スル罪トシテ現行法第二百八十九條ニ規定シタル所謂
 監守盜ノ罪ヲ削除シタル所以ハ蓋シ草案ニ於テハ普通竊盜ノ刑ノ範
 圍ヲ擴張シタルカ故ニ是等ハ普通ノ竊盜罪トシテ處分スルモ罪刑ノ
 權衡ヲ失フコトナキニ至レルヲ以テナリ

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ廳擬其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○職務曠廢ノ罪ヲ删除シタルコト

現行刑法ニ於テハ其第二百七十七條ヲ以テ豫審判事、檢事、警察官等カ身軀財産ヲ妨害スル犯人アルニ當リ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ルヲ以テ一ノ罪ト爲シタリ是レ杜撰ノ甚シキモノト謂ハサル可カラス蓋シ豫審判事及ヒ檢事ハ司法官吏ニシテ人民保護ノ職務ヲ有スルモノニ非ス又警察官ハ人民保護ノ職ニ在ルモノナリト雖モ是レ唯自己ノ職

責ヲ曠廢シタルニ過キス之ヲ以テ刑法上ノ罪ト爲スハ嚴ニ失ス故ニ草案ニ於テハ之ヲ削除シタリ

第二百七十七條 人ノ身軀財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事、檢事、警察官其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○訴訟ヲ受理セサル罪ヲ删除シタルコト

現行刑法ニ於テ裁判官、檢察官故ナクシテ訴ヲ受理セス又遷延シテ審理セサル者ヲ罰スルノ規定(第二百八十三條)ヲ設ケタルハ是レ亦失當ノ甚シキモノナリ蓋シ裁判官カ相當ノ理由ナクシテ訴ヲ受理セザリシハ是レ裁判ヲ誤リタルニ過キサ、ルモノナルカ故ニ之ヲ以テ罪ト爲スノ理由ナク又審理ヲ遷延シタルハ是レ職務ノ懈怠ニ過キサ、レハ懲戒處分ニ付ス可ク之ヲ刑法上ノ犯罪ト爲スハ嚴ニ過クルモノト謂ハサル可カラス殊ニ檢察官ハ公訴ノ提起實行ニ任スルノミニシテ訴ヲ

審理スルモノニ非サレハ所謂訴ヲ受理セス若クハ審理セサル場合ヲ生スルコトナクレハナリ

斯ノ如ク該條ノ規定ハ實際上生シ得ヘカラサル事項ナルヲ以テ草案ニ於テハ之ヲ刪除シタリ

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ逕延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

○收賄罪ニ關スル規定ヲ改メタルコト

現行刑法ニ於テハ收賄者ノ行政官ナルト司法官ナルト又民事ノ裁判ニ關スルト刑事ノ裁判ニ關スルトニ由テ區別シ各其刑ヲ異ニシタリト雖トモ行政事務ニ關スルモノハ輕ク司法事務ニ關スルモノハ重ク又民事裁判ニ關スルトキハ輕ク刑事裁判ニ關スルトキハ重シト一概

ニ斷定スルコト能ハサルノミナラス等シク官吏ニシテ其職務ヲ濫シ人民ヲ害シタル以上ハ其行政官ナルト司法官ナルト又刑事裁判ニ關スルト民事裁判ニ關スルトヲ問フ可キニ非ス且ツ草案ノ主義トシテ刑ノ範圍ヲ擴張シタルカ故ニ是等ノ者ヲ同一ノ刑ニ處スルモ爲メニ罪刑ノ權衡ヲ失フノ恐レナキヲ以テ草案ニ於テハ總テ是等ノ區別ヲ廢止シタリ(第二百五十二條)

又現行刑法ニ於テハ收賄罪ノ加重情狀トシテ單ニ不正ノ處分ヲ爲シタル時ノミヲ規定シタルヲ以テ相當ノ處分ヲ爲サ、ル場合ノ如キハ之ヲ包含セサルヤノ疑ヲ惹起セサルヲ得ス故ニ草案ニ於テハ此二者ノ場合ヲ明言シタリ(第二百五十二條)

○贈賄者ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタルコト

現行刑法ニ於テハ官吏ノ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ約束シタル場合ノ罪

ヲ定メタリト雖モ其官吏ニ賄賂ヲ贈リタル者ニ付テハ何等ノ規定ヲ爲サス固ヨリ賄賂者本人ニ非スシテ官吏ニ賄賂ノ取得約束ヲ教唆シ若クハ之ヲ幫助シタル者ハ草案第八十三條ノ規定ニ依リ假令官吏ノ身分ヲ有セサルモ收賄罪ノ共犯ト爲スコトヲ得ヘシト雖モ賄賂者ハ決シテ之ヲ共犯ト爲スコトヲ得サルナリ蓋シ共犯トハ同一ノ所爲ヲ共ニ犯スノ意思ヲ有セサル可カラサルモノナルカ故ニ教唆者ノ行ハシメントスル所爲ト實行者ノ行ハントスル所爲トハ同一性質ノモノナラサル可カラス從犯正犯ノ關係ニ付テモ亦同シ今收賄者ト賄賂者トノ關係ニ付テ觀ルニ收賄者ハ賄賂ヲ取得シ賄賂者ハ之ヲ贈與スルノ所爲ヲ行フモノニシテ各自ノ所爲ハ全ク相異ナルモノトス勿論賄賂者ハ之ヲ取得セシムルノ意思アル可シト雖モ是レ唯間接ノ意思タルニ止マリ其直接ノ意思トスル所ハ賄賂ノ贈與ニシテ取得ニ非サル

ナリ論者或ハ賄賂者ハ賄賂ヲ贈リタルカ爲メ官吏ヲシテ之ヲ取得スルニ至ラシメタルモノニシテ即チ收賄罪ノ原因ヲ作りタルモノナレハ是レ教唆者ナリト謂フモノアルモ若シ此論法ヲ以テ當ヲ得タルモノナリトセハ夫ノ贓物故買犯ノ如キハ賣却スル者アリテ始メテ之ヲ犯スコトヲ得ヘク賣却者ナクシテ故買者ノミ獨リ存スルノ理ナキモノナレハ賣却者ヲ以テ故買犯ノ教唆者ト爲サル可カラサルニ至ル其他人ヲ畧取シタル者ト被畧取者ヲ收受シタル者トノ關係ニ於ケルモ亦然リ論者之ヲ首肯スルヤ否ヤ恐ラクハ是認スルコト能ハサル可シ

夫レ斯ノ如ク賄賂者ハ收賄罪ノ教唆者ト爲スコキモノニ非ス然ラハ全ク不問ニ付スコキ乎現行刑法ニ於テハ收賄罪ノ發覺ヲ容易ナラシメンカ爲メ賄賂者ヲ不問ニ付シタリト雖モ之ヲ罰セサレハトテ必ス

シモ其發覺ヲ容易ナラシムルモノニ非サルノミナラス前段述ヘタル
カ如ク收賄罪ノ共犯ニハ非スト雖モ兎ニ角其原因ヲ作りタルモノナ
レハ決シテ之ヲ不問ニ付ス可キ理由ナキヲ以テ草案ニ於テハ特ニ之
ヲ罰スルコト、爲シタリ(第二百五十三條)

○職務ニ關スル罪ニ議員及ヒ仲裁人ヲ加ヘタルコト

法律ヲ以テ組織セラレタル議會ノ議員又ハ或事件ノ仲裁ヲ委任セラ
レタル仲裁人ノ如キハ官吏、公吏ト同シク其職務ニ關シテハ毫モ私情
ヲ挾マス愛憎ノ爲メニ偏頗ノ處置ヲ爲ス可カラサルハ其職務上當然
ノ義務ナルヲ以テ其職務ヲ利用シテ私益ヲ圖リ若クハ不正ノ行爲ヲ
爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サ、ルカ如キハ道德ニ背戾スルハ勿論社會
ニ對シテ言フ可カラサルノ弊害危險ヲ醸成スルニ至ルヲ以テ決シテ

之ヲ不問ニ付ス可キニ非ラズ然ルニ現行法ニ於テ是ニ關シ規定スル
所ナキハ缺點ナルカ故ニ草案ニ於テハ之ヲ補ヒタリ(第二百五十二條
乃至第二百五十五條)

○職務上ノ秘密漏泄ノ罪ヲ設ケタルコト

官吏、公吏等ハ其身分上若クハ職業上秘密ノ事件ニ干與スルモノナレ
ハ其職務ニ關スル事ハ事細大トナク嚴ニ其秘密ヲ守ラサル可カラス
然ルニ自己ニ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ利益ヲ得セシムル爲メ之ヲ漏
泄スルカ如キハ實ニ自己ノ職責ニ背クノミナラス其弊害ノ生スル所
亦測ル可カラサルヲ以テ決シテ之ヲ不問ニ付ス可キニ非ス現行法ニ
於テ此點ニ關シ一ノ規定スル所ナキハ缺點ナルヲ以テ草案ニ於テハ
之ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタリ(第二百五十五條)

第二百四十七條 官吏、公吏其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行

ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮ニ處ス

(現)第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハ

シメ又ハ爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕

禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

同上

第二百四十八條 裁判官、檢察官、警察官又ハ此等ノ職務ヲ行ヒ若クハ

補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕、勾引又ハ監禁シタル者ハ五年

以下ノ徵役又ハ禁錮ニ處ス

(現)第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスシテ

人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ

重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日

ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

官吏暴虐

第二百四十九條 裁判官、檢察官、警察官又ハ此等ノ職務ヲ行ヒ若クハ

補助スルモノ又ハ囚人、監置人、懲治人ノ看守若クハ護送ノ職ニ在ル

者刑事被告人、囚人、監置人又ハ懲治人ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ

爲シタル者ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

(現)第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ若

クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條

ノ例ニ同シ

(現)第二百八十條第一項 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對

シ飲食衣服ヲ除去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年

以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(現)第二百八十二條 裁判官、檢察官及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述

セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以

下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ

加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百五十條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害

ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(現)第二百八十條第二項 因テ四人ヲ死傷ニ致シタルトキハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百五十一條 水火風震其他非常ノ事變ニ際シ囚人監置人又ハ懲治人ノ看守若クハ護送ノ職ニ在ル者避難ノ爲メ必要ノ處分ヲ爲サス又ハ爲サシメス因テ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ照シテ處斷ス

收賄罪

(現)第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ忘リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百五十二條 官吏公吏議員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂其他財産上ノ利益ヲ取得シ又ハ之ヲ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役及ヒ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル者ハ五年以下ノ懲役及ヒ五百圓以下ノ罰金ニ處ス裁判官又ハ仲裁人ナルトキハ十

年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ場合ニ於テ賄賂其他財産上ノ利益ヲ取得シタル者其價額罰金ノ多額以上ナルトキハ其價額以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

(現)第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタルトキハ一等ヲ加フ

(現)第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタルトキハ一等ヲ加フ

(現)第二百八十六條 裁判官檢察警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十

圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キトキハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百五十三條 官吏、公吏、議員又ハ仲裁人ニ賄賂其他財産上ノ利益ヲ贈與、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役及ヒ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 官吏、公吏、議員又ハ中裁人賄賂其他財産上ノ利益ヲ取得シ又ハ約束セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル者ハ第二百五十二條第二項ノ例ニ依ル

(現)第二百八十七條 裁判官、檢察官、警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノニ同シ

第二百五十五條 官吏、公吏、議員又ハ仲裁人自己ニ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ利益ヲ得セシムル爲メ其職務ニ關スル秘事ヲ漏泄シタル者ハ三年以下ノ懲役及ヒ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十六條 第二百五十二條乃至第二百五十五條ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科ス



第十一章 生命、身軀ニ對スル罪

本章ハ現行刑法ニ所謂身體ニ對スル罪トシテ規定シタルモノ、中直接ニ生命、身體ニ害ヲ及ホス謀殺故殺ノ罪、毆打創傷ノ罪、過失殺傷ノ罪、自殺ニ關スル罪、墮胎ノ罪及ヒ幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪ヲ一括シタル者ナリ而シテ逮捕監禁ノ罪、脅迫ノ罪及ヒ畧取誘拐ノ罪ノ如キハ

自由ニ對スルモノ又誹毀ノ罪ハ名譽ニ對スル罪ナルヲ以テ草案ニ於テハ別ニ其章ヲ設ケ之ヲ規定セリ

第一節 殺人ノ罪

○現行法ノ贅文ヲ删除シタルコト

現行刑法ニ於テハ毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ總テ謀殺ヲ以テ之ヲ論スルコト、爲セリ蓋シ毒殺ノ所爲タル其手段憚惡卑劣ヲ極メ之ヲ犯スニ易クシテ防クニ難キノミナラス他ノ殺害ノ所爲ト異ニシテ犯罪ノ痕跡ヲ留ムルコト少ナク隨テ容易ニ發覺シ難キノ危險アルヲ以テ其豫謀ノ有無ヲ問ハス特ニ之ヲ謀殺ニ準シ極刑ヲ以テ罰スルコト、爲シタルモノナルモ豫謀ナキニ拘ハラス常ニ謀殺ヲ以テ論スルハ法理ニ反スルノ譏ヲ免カレサルノミナラス輓近醫學ノ進歩ハ此

種ノ犯罪者ヲシテ顔色ナカラシムルニ至リタルヲ以テ草案ニ於テハ此規定ヲ删除シ他ノ殺人罪ト同一ニ論スルコト、爲セリ

又現行刑法第二百九十六條ニ於テ人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論スト規定シタルハ贅文ニ屬ス蓋シ一般普通ノ殺人罪ニ在テハ加害者ノ所爲ニ基クモ危害ノ地ニ詐稱誘導スル場合ハ加害者自身手ヲ下スコトナク被害者ノ所爲ニ原因スルカ如キ感アリト雖モ殺害ノ原因ヲ與ヘタル點ニ至テハ敢テ異ナル所ナケレハ其殺人罪タルハ明文ヲ俟タスシテ明ナル所ナルカ故ニ草案ニ於テハ之ヲ删除シタリ又第二百九十八條ヲ以テ誤探^探ノ罪ヲ規定シタルモ是レ亦特ニ明文ヲ置クノ必要ナキモノナレハ草案ニ於テハ之ヲ删除シタリ蓋シ殺意アリテ之ヲ實行シタル上ハ其目的トシタル人ニ錯誤アルモ同一ノ殺人

罪ヲ構成スルコトハ多言ヲ要セサル所ナレハナリ

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其謀メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

殺人罪

第二百五十七條 人ヲ殺シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

(現)第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百五十八條 前條ノ罪ヲ犯シタル者左ニ記載シタル情狀アルト

- キハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
- 一 直系ノ尊屬親ニ對シテ犯シタルトキ

同上

二 豫メ謀テ犯シタルトキ

三 二人以上ヲ殺シタルトキ

四 支解折割其他慘刻ノ行爲ヲ以テ犯シタルトキ

五 重罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其刑ヲ免カルル爲メ犯シタルトキ

(現)第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

(現)第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

(現)第二百九十六條 重罪、輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カルル爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

(現)第三百六十三條 子孫其祖父父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ罪ニ照シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ癡疾ニ致

シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百五十九條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百六十條 人ヲ殺スノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第二百六十一條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ニ依リ之ヲ殺シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

(現)第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十回以上五十回以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十二條 本節ノ罪ヲ犯シ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科スルコトヲ得一年以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第二節 傷害ノ罪

○毆打創傷ノ罪ヲ傷害ノ罪ト改メタルコト

現行法ニ於テ所謂毆打創傷ノ罪トハ讀テ字ノ如ク人ヲ毆打シテ身軀ニ創傷ヲ加フル所爲ヲ指スモノナルカ故ニ其範圍狹隘ニ失シ夫ノ毆打ノ方法ニ因ラスシテ人ノ身軀ヲ創傷シ又ハ疾病ヲ得セシメ若クハ精神ノ錯亂ヲ生セシメタル者ノ如キハ之ヲ毆打創傷罪トシテ罰スルコトヲ得サルノ不都合ヲ生ス故ニ草案ニ於テハ汎ク是等ノモノヲ包含セシメンカ爲メニ之ヲ傷害ノ罪ト改メ苟クモ人ノ身軀ヲ傷害シタル者ハ其手段ノ如何ヲ問ハス總テ之ヲ罰スルコト、爲シタリ(第二百六十三條第一項)

又頭髮ハ身軀ノ一部ヲ爲スモノニ非スト雖モ婦女ノ如キハ之ヲ以テ

必要缺ク可カラサルモノト爲シ一度之ヲ切斷又ハ毀損サル、トキハ
身軀ニ傷害ヲ受ケタルト同シク悲境ニ沈淪スルニ至リ其婦女ヲ害ス
ルコト大ナルヲ以テ草案ニ於テハ之ヲ身軀ヲ傷害シタル者ト同一ニ
論スルコト、爲シタリ(第二百六十三條第二項)

○科刑方法ヲ改メタルコト

現行刑法ニ於テハ毆打傷創ノ罪ヲ以テ他ノ一般ノ罪ト異ニシ毫モ犯
人ノ意思如何ヲ問ハス唯其結果ノ輕重如何ヲ見テ其刑ヲ定ムルコト
、爲セリ抑々犯罪ナルモノハ無形ノ犯意ト有形ノ結果ト相待テ成立
スル所ノモノナレハ其刑ヲ定ムルニ當テモ亦此二者ヲ斟酌シテ以テ
罪刑ノ權衡ヲ得セシメサル可カラス然ルニ現行法ノ主義ニ依ルトキ
ハ最モ重キ惡意ヲ以テシタル者モ其生シタル結果小ナルトキハ其刑
甚タ輕ク之ニ反シテ至テ輕微ナル意思ヲ以テシタル者モ結果大ナル

トキハ之ヲ嚴刑ニ處セサル可カラサルノ不權衡ヲ生ス加之創傷ヲ種
々ニ細別シ一々之ニ對シテ刑ヲ定メタルカ故ニ實際上裁判官カ刑ヲ
盛ルノ範圍狹隘ニ失シ不都合實ニ甚ナカラサルカ故ニ草案ニ於テハ
一般ニ傷害ノ罪ノ刑トシテ範圍ノ大ナル刑ヲ定メ裁判官ヲシテ結果
及ヒ意思ノ如何ヲ斟酌シテ適宜ニ其刑ヲ科スルコトヲ得セシメ而シ
テ其中ニ付キ結果ノ重大ナルモノヲ指示シテ特ニ重刑ニ處スルコト
、爲シタリ(第二百六十三條乃至第二百六十五條)

○現行法第三百五條ノ規定ヲ改メタルコト

現行刑法ニ於テハ毆打創傷罪ニ付キ共犯處分ノ特例ヲ設ケ假令數人
共謀シテ人ヲ毆打スルモ仍ホ其創傷ノ結果ヲ分チ現ニ手ヲ下シタル
者ヲシテ各其自ラ成セル創傷ノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科スルコト
、爲シ而シテ數人共毆亂打シテ果シテ何人カ孰レノ創傷ヲ與ヘタル

ヤ知ルコト能ハサルトキハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減シタル刑ヲ以テ其數人全躰ヲ同等ニ處罰スルコト、定メタリ是レ毆打ハ一ノ結果犯ニシテ其自ラ與ヘタル結果ハ必ラス之ヲ負擔ス可ク又自ラ與ヘサル結果ハ假令意思アルモ其實ニ任スルニ及ハストノ主義ニ出テタルモノナル可シト雖モ共謀ニ出テタルトキハ總テ總則ノ共犯處分例ニ從ヒ現ニ生シタル最重ノ結果ニ對シ其實ニ任セシムルヲ相當トス又傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル場合ト雖モ其數人ハ同一躰ト爲リテ事ニ從ヒタルモノナレバ互ニ其責任結果ヲ共擔ス可キモノナルヲ以テ輕傷ヲ與ヘタル者ニ對シテ重傷ノ刑ヲ科スルモ決シテ自己ノ干與セサル結果ニ對シテ實ヲ負フモノニ非サルカ故ニ現行法ノ設ケタル特例ハ法理ニ適シタルモノト謂フ可カラズ

故ニ草案ニ於テハ共謀ニ出テタルトキハ各自ノ與ヘタル傷ニ輕重ア

リ若クハ其傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル場合ト雖モ總テ之ヲ總則ノ共犯例ニ照シ處罰スルコト、爲シタリ管エ然ルノミナラス夫ノ實際上屢々現ル、共謀ニ非スシテ偶然ニ人ヲ共毆シ而カモ其傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル場合ニ付テモ尙ホ草案ニ於テハ之ヲ共犯ノ例ニ依テ同一ニ處分スルコト、爲シタリ蓋シ此場合ニ於テハ孰レカ其一人ハ毫モ自ラ關與セサリシ所爲ニ付キ其實ヲ負フノ不條理ヲ來スト雖モ若シ之ヲ不問ニ付スルトキハ弊害續出スルニ至ルヲ以テ條理ノ如何ハ姑ク之ヲ措キ政略上斯クハ規定シタルモノナラン歟(第二百六十六條第二項)

傷害罪

第二百六十三條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

婦女ノ頭髮ヲ切斷又ハ毀損シタル者亦同シ

(現)第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

同上

第二百六十四條 身體傷害ニ因リ左ノ結果ヲ生セシメタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

- 一 一目又ハ兩目ノ視能ノ喪失
- 二 一耳又ハ兩耳ノ聽能ノ喪失
- 三 語能ノ喪失
- 四 一肢以上ノ使用ノ不能

五 陰陽ノ不能

六 重大ニシテ不治ナル精神又ハ身體ノ疾病

七 流産

(現)第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癱疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

(現)第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百六十五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ有期懲役ニ處ス

同上

直系ノ尊屬親ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ

處ス

二八四

(現)第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

(現)第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

共犯例

第二百六十六條 前三條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

二人以上ニテ人ヲ傷害シ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルトキハ同謀者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

(現)第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕

重ヲ知ルコト能ハサルトキハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

(現)第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第二百六十七條 暴行ヲ加フト雖モ人ヲ傷害スルニ至ラサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

(現)第四百二十五條九、人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

第三節 過失殺傷ノ罪

○過失傷害ノ罪ヲ親告罪ト爲シタルコト

過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ其事重大ナルヲ以テ直チニ之ヲ訴

第二編 罪名 第十一章 生命、身體ニ對スル罪 第三節 過失殺傷ノ罪 二八五

追シ處罰スルノ必要アルモ單ニ人ヲ傷害シタルニ止マルヘキハ其情
狀大ニ恕ス可キモノアルノミナラス實際上被害者ト加害者トノ間ニ
示談成リテ事ノ落着ニ歸スル場合多キヲ以テ草案ニ於テハ此罪ニ付
テハ特ニ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論スルコト、爲シタリ(第二百六十
八條)

過失傷害

第二百六十八條 過失ニ因テ人ヲ傷害シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ
處ス

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

(現)第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱瘓疾ニ致シタル者ハ十圓以
上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ
二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

過失致死

第二百六十九條 過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二百圓以下ノ罰
金ニ處ス

承前

(現)第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セズ過失ニ因テ人ヲ死
ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十條 職務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル
者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 墮胎ノ罪

○現行法ノ不備ヲ補ヒタルコト

現行刑法ニ於テハ妊婦ノ承諾ナクシテ墮胎セシメタル者ノ罪ヲ定ム
ルニ當リ特ニ其方法ヲ明示シテ威逼誑騙又ハ毆打其他ノ暴行ヲ加ヘ
云々ト爲シタルヲ以テ夫ノ熟睡ニ乘シテ墮胎ノ手段ヲ施シ若クハ飲

第二編 罪名 第十一章 生命、身体ニ對スル罪 第四節 墮胎ノ罪 二八七

食物ニ混和シテ墮胎藥ヲ與ヘタル者ノ如キハ之ヲ重罰スルコトヲ得ルヤ否ヤ議論ノ種子ト爲ルカ故ニ草案ニ於テハ是等ノ疑ナカラシメ
ンカ爲メ其方法ヲ示サ、ルコト、爲シタリ(第二百七十一條)

墮胎

第二百七十一條 婦女ヲシテ墮胎セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ
處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

同上

第二百七十二條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷
害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(現)第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條
ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ
處ス

(現)第三百十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者

ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

(現)第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因
テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮
胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

(現)第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ殘篤疾又ハ死ニ致シ
タル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

同上

第二百七十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタ
ル者ハ六月以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年
以下ノ懲役ニ處ス

同上

第二百七十四條 醫師、產婆又ハ藥劑師婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾
ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷
ニ致シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

婦女ノ囑託ヲ受ケ謝金ヲ得テ墮胎セシメタル者亦同シ

(現)第三百三十二條 醫師、產婆又ハ藥劑師前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等

ヲ加フ

第二百七十五條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ六月以下ノ懲役ニ處ス

(現)第三百三十條 墮胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第五節 老幼者、疾病者ノ保護ヲ缺ク罪

○現行法ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ニ依レハ幼者ノ遺棄ニ付テハ八歳未滿ノ者ト制限シタルヲ以テ其以上ノ者ニ係ルトキハ假令未タ自活スルコト能ハサル者ト雖モ罪ト爲ラス然レトモ此罪ハ元來自活スルコト能ハサル者ヲ保護ス

ルノ趣旨ニ出テタルモノナレハ其年齡ノ如何ヲ問ハス苟クモ自活スルコト能ハサル者ヲ遺棄シタル者ハ總テ之ヲ罰スルノ必要アリ故ニ草案ニ於テハ此年齡ノ制限ヲ廢シ廣ク扶助ヲ要スヘキ者ト改メタリ又現行刑法ニ於テハ寥聞無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ特ニ之ヲ重ク罰スルコト、爲シタルモ其所謂寥聞無人ノ地トハ絶對的ノ者ナルカ相對的ノ者ナルカ明カナラサルノミナラス重ク罰スルト否トハ裁判官ノ認定ニ一任スルモ克ク罪刑ノ權衡ヲ保ツコトヲ得ヘキカ故ニ草案ニ於テハ別ニ刑ノ範圍ヲ擴張シ現行法ノ規定ハ之ヲ刪除シタリ(第二百七十六條)

又老幼者、疾病者ヲ保護ス可キ責任アル者ハ現行刑法ノ規定スルカ如ク必スシモ給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケタル者ノミニ限ラス又其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サル者ノ如キハ實質上遺棄シタル者ト敢テ異

第二編 罪名 第十一章 生命、身體ニ關スル罪 第五節 老幼者、疾病者ノ保護ヲ缺ク罪 二九一

ナル所ナシ故ニ草案ニ於テハ是等ノ點ニ付キ修正ヲ加ヘタリ(第二百七十七條)

扶助ヲ要ス可キ老幼者、疾病者ヲ發見シタル者故ナク之ヲ扶助セス若クハ官ニ申告セサル者ノ如キハ人類相救フノ本分ヲ盡サ、ルモノナレハ現行法ニ於ケルカ如ク其發見シタル地ノ自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ナルト否トヲ區別ス可キニ非サルヲ以テ草案ニ於テハ此區別ヲ廢シ總テ之ヲ罰スルコト、爲シタリ然レトモ一ノ不行爲ヲ罰スルニ現行法ニ於ケルカ如ク重禁錮ノ刑ヲ以テスルハ甚タ嚴ニ過クルヲ以テ草案ハ之ヲ拘留又ハ科料ニ處スルコト、爲シタリ(第二百七十九條)

老幼者遺棄

第二百七十六條 老幼又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタ

ル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年

以下ノ重禁錮ニ處ス

自ラ生活スルコト能ハサル老幼者疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

(現)第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥聞無人ノ地ニ遺

棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百七十七條 老幼者又ハ疾病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ

遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササル者ハ五年以下ノ懲役

ニ處ス

直系ノ尊屬親ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處

ス

(現)第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ

罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

(現)第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅

第二編 罪名 第十一章 生命、身体ニ關スル罪 第五節 老幼者、疾病者ノ保護ヲ缺ク罪 二九三

同上

同上

追遺棄証告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百七十八條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(現)第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

同上

第二百七十九條 扶助ヲ要ス可キ老幼者又ハ疾病者ヲ現場ニ發見シタル者故ナク之ヲ扶助セス又ハ當該ノ官吏若クハ公吏ニ申告セサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

(現)第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

第十二章 自由ニ對スル罪

第一節 逮捕及ヒ監禁ノ罪

○現行法第三百二十二條ノ但書ヲ刪除シタル

コト

現行刑法ニ於テハ人ヲ逮捕監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス云々ト規定シ其但書ヲ以テ監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フルコト、爲シタルモ草案ニ於テハ刑ノ範圍ヲ擴張シ三年以下ノ懲役ニ處スルコト、爲シタルカ故ニ長日月間監禁シタル者ハ自由ニ重刑ニ處スルコトヲ得ルニ至リタルヲ以テ但書ノ規定ハ之ヲ刪

第二編 罪名 第十二章 自由ニ對スル罪 第一節 逮捕及ヒ監禁ノ罪 二九五

除シタリ

逮捕監禁

第二百八十條 擅ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

若シ飲食衣服ヲ屏去シ又ハ毆打其他苛刻ノ行爲ヲ施シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

(現)第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過ケル毎ニ一等ヲ加フ

(現)第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以下二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百八十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害

同上

ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(現)第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打制傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(現)第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二節 脅迫ノ罪

○現行法ノ不備ヲ補ヒタルコト

現行刑法ニ於テハ脅迫ノ方法ヲ制限シテ殺人放火毆打及ヒ毀壞劫掠ト爲シタルヲ以テ自由名譽ニ害ヲ加ヘント脅迫シタル者ノ如キハ之ヲ罰スルコトヲ得ス又脅迫ノ結果人ヲシテ義務ヲキコトヲ行ハシメ若クハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ノ如キハ特ニ重ク罰スルノ必要

第二編 罪名 第十二章 自由ニ對スル罪 第二節 脅迫ノ罪

アルヲ以テ草案ニ於テハ是等ノ點ヲ補ヒタリ

脅迫罪

第二百八十二條

人ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘン
ト脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シタル
者亦同シ

(現第三百二十六條)

人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放

火セシト脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以

上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞切

掠セント脅迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓

以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(現第三百二十八條)

親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前

二條ノ例ニ同シ

同上

第二百八十三條

暴行ヲ用ヒ又ハ生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對
シ害ヲ加ヘント脅迫シ人ヲシテ義務ヲキコトヲ行ハシメ又ハ行フ

可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シ人ヲ

シテ義務ヲキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦

同シ

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百八十四條

本節ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

(現第三百二十九條)

此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親

屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

同上

第三節 人ヲ畧取スル罪

○現行法ノ不備缺點ヲ補正シタルコト

現行刑法ニ於テハ幼者ヲ十二歳未滿ノ者ト其以上ノ者トニ別チ十二歳未滿ノ幼者ニ係ル下キハ暴行脅迫ヲ以テ之ヲ奪ヒ去ル(所謂略取)ト詐欺ノ手段ヲ以テ之ヲ誘ヒ去ル(所謂誘拐)トヲ問ハス同一ノ刑ニ處スルモ十二歳以上ノ者ニ係ルトキハ暴行脅迫ヲ以テシタル者ハ詐欺ノ手段ヲ以テシタル者ヨリ其刑ヲ重クシタリ然レトモ二十歳未滿ノ幼者ハ孰レモ父母若クハ後見人ノ保護監督ノ下ニ在ル者ナレハ畧取誘拐ノ所爲アルトキハ其幼者ノ將來ヲ誤ルト共ニ父母若クハ後見人ノ監督權ヲ害スルニ至ルヲ以テ其年齡ニ依テ刑ヲ異ニスルノ理ヲキニミナラス假令暴行脅迫ヲ用ヒサルモ詐欺ノ手段ニ依リタル者ハ其幼

者及ヒ監督者ヲ害スルコト敢テ暴行脅迫ヲ用ヒタル者ト軒輕スルコトナキモノト謂ハサル可カラヌ固ヨリ年齢ノ長幼畧取ト誘拐トノ間ニハ其罪情ニ差異アル可シト雖モ是等ハ裁判官ノ認定ニ一任スルヲ以テ却テ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘキカ故ニ草案ニ於テハ總テ是等ノ區別ヲ廢シタリ又父母若クハ其他ノ監督者ノ承諾ヲ得ルモ其承諾タル暴行脅迫又ハ詐欺ノ手段ヲ以テ得タルモノナルトキハ是レ法律上無効ノモノナルカ故ニ此罪ヲ成スハ明ナル所ナレトモ此點ニ關シ規定スル所ナキトキハ疑ヲ生スルノ種子ト爲ルヲ以テ草案ニ於テハ之ヲ明示シタリ(第二百八十五條)

又現行刑法ニ依レハ此罪ハ畧取誘拐ノ所爲ノミニテハ未タ成立セスシテ更ニ之ヲ自ラ藏匿スルカ若クハ他人ニ交付スルコトヲ要素トナシタルモ草案ニ於テハ藏匿交付ヲ要セサルコト、爲シタリ蓋シ藏匿

交付ノ事實ナキモ既ニ畧取誘拐ノ所爲アルトキハ幼者及ヒ監督者ノ
權利ヲ害スルニ於テ餘リアレハ其後ノ事實如何ヲ問フノ要ナクハ
ナリ(第二百八十五條)

又現行刑法ニ於テ此罪ニ付キ一般ニ告訴アルニ非サレハ之ヲ論スル
コトヲ得スト爲シタルハ當テ得タルモノト謂フ可カラス蓋シ此種ノ
罪ヲ報告罪ト爲シタルハ元來被害者ノ名譽ヲ保護スルニ出テタルモ
ノナレハ若シ告訴ヲ待タスシテ直チニ加害者ノ處分ニ着手スルモ爲
メニ被害者ノ利益ヲ害スル恐レナキ場合ニ於テハ特ニ被害者ノ告訴
ヲ待ツノ要ナキモノト謂ハサル可カラス即チ猥褻又ハ婚姻ノ目的ヲ
以テ犯シタルモノナルトキハ固ヨリ告訴ヲ待ツノ必要アル可シト雖
モ其以外ノ目的ニ出テタルトキハ直チニ其罪ヲ審理スルモ必スシモ
被害者ノ利益ヲ害スルモノニ非サルヲ以テ草案ニ於テハ猥褻又ハ婚

姻ノ目的ヲ以テ犯シタルトキニ限り告訴ヲ要スルコト、爲シ其他ノ
場合ニ付テハ現行法ノ規定ヲ踏襲セザリキ(第二百八十六條第三項)
次ニ現行刑法ニ於テ幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ヲ重
ク罰スルハ是レ外國人ニ交付スルトキハ自然國外ニ移送スル恐レア
リテ其幼者及ヒ監督者ヲ害スルコト大ナルニ至ルヲ顧慮シタルニ依
ルナル可シト雖モ外國人ニ交付シタレハトテ必スシモ國外ニ移送ス
ルモノニ非サルカ故ニ草案ニ於テハ之ヲ刪除シタリ然レドモ國外ニ
移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取スルカ如キハ其害タル他ノ目的ニ出テ
タル者ト決シテ同一ニ論ス可カラサルヲ以テ之ヲ重罰スルコト、爲
シ且ツ其被畧取者ノ幼者ナルト丁年者ナルトヲ問ハサルコト、爲シ
タリ又偽計若クハ威力ヲ用ヒサルモ國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ
賣買スルカ如キハ元來賣買者双方ノ合意ニ出テタルモノナレハ其幼

者及ヒ監督者ノ權利ヲ害スルコトナシト雖モ其危險甚カラサルヲ以テ畧取シタルモノト同一ニ論スルコト、爲シタリ(第二百八十八條)

畧取罪

第二百八十五條 父母又ハ其他ノ監督者ノ承諾ナクシテ二十歳未満ノ幼者ヲ略取シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

偽計又ハ威力ヲ用ヒ父母又ハ其他ノ監督者ノ承諾ヲ得テ略取シタル者亦同シ

同上

第二百八十六條 營利ノ目的ヲ以テ偽計又ハ威力ヲ用ヒ人ヲ略取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ偽計又ハ威力ヲ用ヒ人ヲ略取シタル者亦同シ

第二項ノ罪ハ被害者又ハ親族ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但略取セラレ

タル者婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻不成立又ハ無効ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

(現)第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ら藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(現)第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ら藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ら藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(現)第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ效ナシ

第二百八十七條 營利ノ目的ヲ以テ被略取者ヲ收受シタル者ハ七年

同上

以下ノ懲役ニ處ス

(現)第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百八十八條 國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取シ又ハ賣買シタル者ハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

略取又ハ賣買セラレタル者ヲ國外ニ移送シタル者亦同シ

(現)第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百八十九條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

同上

同上

第十三章 名譽ニ對スル罪

○誹毀ノ方法ヲ限定セサルコト

現行刑法ニ於テハ誹毀ノ方法ヲ明示シテ公然ノ演說書類畫圖ノ公布雜劇偶像ノ作爲云々ト爲シタルモ人ノ名譽ヲ毀損スルノ方法ハ必スシモ是等ノモノニ限ラサルヲ以テ草案ニ於テハ之ヲ限定セス苟クモ惡事醜行アリトシテ公然之ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ之ヲ罰スルコト、爲シタリ(第二百九十條)

第二百九十條 惡事醜行アリトシテ公然之ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス六月以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ルニ非サレハ之ヲ罰セス

(現)第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ

誹毀罪

重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇俳優ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者

ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

(現)第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前

條ノ例ニ照シテ處断スルコトヲ得ス

第二百九十一條 惡事醜行ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者

ハ拘留又ハ科料ニ處ス

(現)第四百二十六條十二、公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ

論ス

親告

第二百九十二條 本章ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親族若クハ遺族ノ告

訴ヲ待テ之ヲ論ス

(現)第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親

屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス



第十四章 財産ニ對スル罪

第一節 賊盜ノ罪

○強竊盜ノ罪及ヒ詐欺取財ノ罪ヲ一節中ニ規

定シタルコト

現行刑法ハ竊盜ノ罪強盜ノ罪及ヒ詐欺取財ノ罪ニ付キ各別ニ節ヲ設
ケテ規定シタルヲ以テ此三者ハ其罪質ヲ異ニスルノ觀アリト雖モ竊
盜ト云ヒ強盜ト云ヒ又詐欺取財ト云フモ其實他人ノ財物ヲ不正ニ盜
取スルモノニシテ唯之ヲ盜取スルノ方法ヲ異ニスルニ過キサルノミ
ナラス之ヲ別節ニ規定シタル結果典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署
ノ命令ニ因リ他人ノ管守スル自己ノ所有物ヲ竊取シタルトキハ之ヲ
竊盜トシテ論スルモ暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ詐欺ノ手段ヲ以テ盜取シタ

ルモノ、如キハ其他人ヲ害スルコト却テ竊取シタル者ノ上ニ在ルモ之ヲ強盜若クハ詐欺取財トシテ罰スルコトヲ得サルノ不都合アリシヲ以テ草案ニ於テハ此三者ヲ一節中ニ規定シ而シテ別ニ總則ヲ置テ各場合ニ適用ス可キ規定ヲ設ケタリ

第二百九十三條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

第二百九十四條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百九十五條 本節ノ罪ヲ犯シ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ六月以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス六月未滿ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第二百九十六條 直系ノ親族及ヒ同居ノ親族互ニ本節ノ罪ヲ犯シタ

親族相盜

ル者ハ其刑ヲ免シ其他ノ親族ニ係ルトキハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但共犯者ハ此限ニ在ラス
強盜ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

(現)第三百七十七條 祖父母父母夫妻孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス
若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

(現)第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ揭ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第二百九十七條 自己ノ財物ト雖モ質權又ハ留置權ニ因リ他人ノ占有ニ屬シ又ハ官署若クハ公署ノ命ニ依リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ他人ノ財物ヲ以テ論ス

(現)第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタルトキ之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

自己ノ物ノ盜取

第一款 竊盜ノ罪

○竊盜罪ニ關スル規定ヲ改メタルコト

現行刑法ニ於テハ竊取ノ手段方法及ヒ其目的物ノ如何ニ依リ刑ニ輕重ノ區別ヲ設ケ單純ノ竊盜罪ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處スルモ事變ニ乘シテ犯シタル者又ハ門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入りタル者或ハ二人以上共ニ犯シタル者若クハ兇器ヲ携帶シテ犯シタル者等ニ在テハ特ニ重ク之ヲ罰シ又山林田野牧場等ニ於テ產物ヲ竊取シタル者ハ其害ノ多少ヲ問ハス特ニ其刑ヲ輕クシタルヲ以テ裁判官ノ運用ノ自由ヲ拘束シ實際上ノ不便鮮少ナラサルノミナラス其最モ重キ場合ト雖モ輕懲役ニ止マリ而カモ特殊ノ條件ヲ具フルトキニ非サレハ此刑ヲ科スルコトヲ得サルカ故ニ竊盜犯

ノ如キ殆ント不治ノ犯人ヲ懲戒スルニ足ラサリシヲ以テ草案ニ於テハ是等ノ細區別ヲ廢シ一面刑ノ範圍ヲ擴張シテ自由ニ罪情ニ相當スル刑ヲ科スルコトヲ得セシメタリ(第二百九十八條)

竊盜

第二百九十八條 人ノ動産ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以

下ノ懲役ニ處ス

(現)第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ

輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ

例ニ照シテ處斷ス

(現)第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月

以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

(現)第三百六十七條 水火、震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六

月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

(現)第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

(現)第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

(現)第三百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

(現)第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜葉其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一圓以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

(現)第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

(現)第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二款 強盜ノ罪

○強盜罪ニ關スル規定ヲ改メタルコト

夫レ盜取トハ他人ノ所有ニ屬スル物件ヲ他人ノ所持内ヨリ不法ニ自己ノ所持内ニ移轉スルノ謂ナルヲ以テ其目的タル物件ハ必ラス有躰ノ動産ナラサル可カラスト雖モ暴行脅迫ヲ加ヘテ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシムルトキハ假令其目的トスル所無躰物若クハ不動産ニ在ルモ實際動産ヲ強取スルト同一ノ害アルヲ以テ草案ニ於テハ特ニ之ヲ強盜ニ準シテ罰スルコト、爲シタリ(第三百條)

又現行刑法ニ於テハ強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處スト規定シタルヲ以テ其創傷最モ輕微ノモノナル場合ニ於テモ仍ホ之ヲ無期徒刑ニ處セサル可カラス又殺意ヲクシテ死ニ致シタル者モ殺意アリタル者ト等シク之ヲ死刑ニ處スルハ甚ダ

嚴ニ過クルノミナラス裁判官ノ便宜處分ニ委テソカ爲メ人ヲ傷シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處スルコト、爲シタリ(第三百一條)

強盜

第二百九十九條 暴行ヲ用ヒ又ハ現ニ被害者又ハ被害者ニ於テ救護ス可キ者ノ生命、身躰、自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘント脅迫シテ人ノ動産ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

(現)第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

准強盜

第三百條 前條ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

傷人、致死

第三百一條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

(現)第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

強盜強姦

第三百二條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

(現)第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

准強盜

第三百三條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ其刑ヲ免カルル爲メ臨時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

(現)第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

同上

第三百四條 人ヲ昏醉セシメテ其動産ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

(現)第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百五條 強盜ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ監視ニ付ス

第三款 恐喝盜ノ罪

○恐喝取財ノ罪ヲ詐欺取財ノ罪ヨリ分離シタルコト

現行刑法ニ於テハ恐喝取財ノ罪ヲ以テ詐欺取財ノ罪ノ一ト爲シ之ヲ同一ノ條下ニ規定シタルモ二者大ニ其手段ヲ異ニスルノミナラス既ニ盜取ノ手段ニ依リ盜罪ヲ區別シテ竊盜罪強盜罪ト爲シタル上ハ是レ亦各別ニ規定スルヲ以テ穩當トスルカ故ニ草案ニ於テハ之ヲ分

離シタルナリ

第三百六條 第二百九十九條ニ記載シタル以外ノ脅迫ヲ用ヒ人ノ動産ヲ強取シタル者ハ恐喝盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百七條 前條ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ恐喝盜ヲ以テ論ス

(現)第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四款 詐欺盜ノ罪

○現行法ノ贅文ヲ删除シタルコト

現行刑法ニ於テハ其第三百九十二條及ヒ第三百九十三條第一項ヲ以テ物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者及ヒ他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論スト規定シタルモ物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽リ又ハ他人ノ動産不動産ヲ冒認スルハ多クハ欺罔ノ一種ト爲ルヲ以テ是等ノ所爲ニシテ果シテ詐欺ノ手段ヲ以テ人ヲ誤惑ニ陷レ不正ノ利益ヲ得タルモノナリトセハ是レ純然タル詐欺取財ナリ特ニ詐欺取財ヲ以テ論スト云フニ及ハサルナリ又第三百九十三條第二項ニ自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱

シテ他人ニ賣與シ又ハ重テ抵當典物ト爲シタル者亦同ジト規定シタルモ現今不動産ノ賣買抵當等ニ付テハ登記ノ方法アリテ讓受人抵當權者若クハ質權者ハ直チニ之ヲ登記シテ自己ノ權利ヲ確保スルコトヲ得ルヲ以テ其不動産上ニ抵當契約若クハ質契約ノ存スルコトヲ欺隱スルハ甚タ容易ナラサルカ故ニ此罪ヲ犯サントスルモ得サル所ナルノミナラス假令之ヲ犯スコトアリトスルモ第一ノ抵當權者又ハ質權者カ既ニ登記ヲ爲シタル者ヲ賣與シ又ハ抵當典物ト爲スハ是レ第二ノ讓受人又ハ抵當權者質權者ヲ欺罔スルモノナレハ詐欺取財トシテ之ヲ論スルコトヲ得ヘキヲ以テ特ニ明文ヲ置クノ要ナキモノトス是レ草案ニ於テ右兩條ノ規定ヲ删除シタル所以ナリ

第三百八條 人ヲ欺罔シテ動産ヲ騙取シタル者ハ詐欺盜ノ罪ト爲シ

第二編 罪名 第十四章 財産ニ對スル罪 第一節 賊盜ノ罪 第四款 詐欺盜 三二二

詐欺盜

准詐欺盜

十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百九條 前條ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ詐欺盜ヲ以テ論ス

(現)第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(現)第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

(現)第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ニ爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子ヲ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

第三百十條 未成年者ノ知慮淺薄ニ乘シテ其財物ヲ授與セシメ又ハ

同上

不法ニ財産上ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ詐欺盜ヲ以テ論ス

(現)第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第二節 占有物横領ノ罪

本節ハ現行法ニ所謂受寄物費消罪及遺失物埋藏物ニ關スル罪ヲ一括シ之ヲ修正シタルモノナリ

○受寄物費消罪ニ關スル規定ヲ改メタルコト

現行刑法第三百九十五條ニ於ケル受寄物費消ノ罪トハ佛國刑法ニ所謂背信罪ヲ指スモノニシテ他ノ信用上委託ヲ受ケタル物件ヲ其信用

ニ背キ費消スルニ因テ成立スルモノナルカ故ニ其範圍狹隘ニ失シ不都合尠カラス例ヘハ好意上他人ノ爲メニ占有スル物件ヲ横領スルカ如キ元來委託ヲ受ケタルモノニ非サルヲ以テ之ヲ横領スルモ信用ニ背クコトナシト雖モ爲メニ其所有者ノ權利ヲ害スルニ至ルハ特ニ委託ヲ受ケタル物件ヲ横領スルト敢テ軒輊スル所ナカル可シ次ニ所謂費消トハ是レ亦狹隘ニ過キ用語ノ妥當ヲ得タルモノト謂フ可カラス固ヨリ費消トハ實際物件ヲ滅盡スルノ所爲ノミナラス販賣、交換、質入等尠クモ其物件ヲシテ所有主ニ返還スルコト能ハサル地位ニ至ラシメタル總テノ場合ヲ包含スルモノナリト雖モ所有者ノ權利ヲ害スルノ方法必スシモ是等ノ所爲ニ止マルモノニ非ス即チ他人ノ爲メ占有スル物件ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ占有スルカ如キ之ヲ費消スルニ比シテ其害大差ナカル可キモ所謂費消ニ非サルヲ以テ之ヲ罰ス

ルコトヲ得サリシハ一ノ缺點ナリト謂ハサル可カラス現行法ニ於テハ是等ノ缺點ヲ補ハシカ爲メニ其末段ニ於テ一種ノ詐欺取財ノ罪ヲ規定シ若シ騙取、拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論スルコト、爲シタルモ未タ總テノ場合ヲ網羅セシムルコト能ハサルノミナラス此罪ノ物躰タル可キモノヲ金額、物件ト限リタルカ故ニ解釋上物件中ニ不動産ヲ包含セシムルコト能ハス斯ノ如ク現行法第三百九十五條ノ規定ハ種々ノ缺點アルヲ免レサルカ故ニ草案ニ於テハ大ニ修正ヲ加ヘ尠クモ他人ノ爲メ占有スル動産、不動産ヲ横領シタル者ハ委託ヲ受ケタルト否トヲ問ハス又之ヲ費消シタルト否トヲ問ハス總テ之ヲ罰スルコト、爲シタリ(第三百十一條)

又業務上他人ノ爲メニ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領スル者ノ如キハ其情狀常人ノ犯シタル者ニ比シ大ニ重キ所アルヲ以テ是等ハ特ニ

嚴罰スルコト、爲シタリ(第三百十二條)

三二六

○遺失物埋藏物ニ關スル罪ヲ改メタルコト

現行刑法ニ於テハ其第三百八十五條第三百八十六條ヲ以テ遺失物及ヒ埋藏物隱匿ノ罪ヲ規定シタルモ是レ亦其範圍狹隘ニ失ス蓋シ遺失物トハ何人ノ占有ニモ屬セサル他人ノ所有物ヲ謂フニ外ナラサルヲ以テ夫ノ車夫カ乘客ノ車上ニ置忘レタル物件ヲ發見シ又ハ紙屑買カ其買受タル紙屑中ヨリ紙幣ヲ發見シ之ヲ其儘自己ノ有ト爲シタル場合ノ如キハ自己ノ占有内ニ在ルモノナレハ之ヲ竊盜罪ト爲スコトヲ得サルハ勿論他人ノ爲メニ占有スル意思ナキモノナルヲ以テ現行法ニ所謂受寄物費消罪ノ範圍ヲ擴張シタル草案第三百十一條ノ罪トシテモ之ヲ罰スルコトヲ得サル可シ左レハトテ遺失物隱匿罪タルニハ何人ノ占有ニモ屬セサル物件ナルコトヲ要スルヲ以テ此場合ニ於

クル車上ノ物品若クハ紙屑中ノ紙幣ノ如キ他人ノ占有ヲ離ルハト同時ニ自己ノ占有内ニ入リタル者ハ之ヲ遺失物ト云フコトヲ得ス且ツ既ニ自己ノ占有内ニ在ルヲ以テ此罪ノ成立要素タル拾得ノ所爲即チ自己ノ占有内ニ移スノ所爲ヲ行ハントスルモ到底得ヘカラサル所ナルカ故ニ結局正條ナキモノトシテ之ヲ不問ニ付セサルヲ得サル可シ然レトモ是等ノ所爲ハ何人ノ占有ニモ屬セサル物件即チ遺失物ヲ拾得シテ隱匿シタル者ト其背徳加害ノ點ニ於テ敢テ甚シキ輕重ナキモノナレハ決シテ之ヲ不問ニ付ス可キモノニ非ス故ニ草案ニ於テハ遺失物其他ノ占有ヲ離レタル動産ヲ得テ之ヲ横領シタル者云々ト改メ前記ノ所爲ヲモ包含セシムルコト、爲シタリ又現行刑法ハ遺失物ノ一種タル埋藏物ニ付テハ他人ノ所有地内ニ於テ發見シタル場合ニ限リタルヲ以テ自己ノ所有地若クハ土地以外ノ

動産不動産中ニ埋没セル物件ヲ發見シテ之ヲ隠匿シタル者ハ之ヲ罰スルコトヲ得サルノ不都合ヲ生シタリ故ニ草案ニ於テハ此埋藏物ニ關スル特別ノ規定ヲ廢シ他ノ遺失物ト同一ノ規定中ニ包含セシメタリ(第三百十三條)

占有物横領

第三百十一條 他人ノ爲メ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ動産ト雖モ官署又ハ公署ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

(現)第三百九十五條 受寄ノ財物、借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ顯取携帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
(現)第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件

同上

チ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス
第三百十二條 業務上他人ノ爲メ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ六月以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス

遺失物罪

第三百十三條 遺失物、漂流物其他他人ノ占有ヲ離レタル動産ヲ得テ之ヲ横領シタル者ハ第三百十一條ノ例ニ依ル

(現)第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隠匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
(現)第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隠匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百十四條 本節ノ罪ニハ第二百九十六條第一項ヲ適用ス

(現)第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ揭ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第三百十五條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

!... *... *

第三節 贓物ニ關スル罪

○贓物ニ關スル罪ニ改正ヲ加ヘタル

現行刑法ニ於テハ等シク贓物ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲スモ其贓物ノ強竊盜ニ依テ得タルモノナルト詐欺取財其犯罪ニ依テ得タルモノナルトテ區別シ大ニ其刑ヲ異ニシタルモ贓物ヲ寄藏故買スル所爲ヨリ觀レハ一ハ重ク一ハ輕シト云フコトヲ得サルヲ以テ草案ニ於テハ其區別ヲ廢シ同一ニ罰スルコトハ爲シタリ

贓物罪

而シテ贓物ヲ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲ス者ハ多クハ之ヲ以テ一ノ營業ト爲スモノニシテ盜犯者ヲシテ其兇行ヲ逞セシムルノ便宜ヲ與ヘ自然盜罪ヲ増加スルニ至ルヲ以テ之ヲ嚴罰セサル可カラサルカ故ニ草案ニ於テハ特ニ其刑ヲ重クシタリ(第三百十六條)

!... *... *

第三百十六條 犯罪ニ係ル贓物ヲ受ケタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

若シ寄藏故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

(現)第三百九十六條

自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

(現)第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百十七條 前條ノ罪ヲ犯シ六月以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス六月未滿ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第三百十八條 直系ノ親族又ハ其配偶者若クハ同居ノ親族ノ間ニ於テ第三百十六條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免ス

第四節 財産毀棄ノ罪

○財産毀棄ノ罪ニ關スル規定ヲ改メタルコト
現行刑法ニ於テハ家屋其他ノ建造物又ハ其以外ノ物ヲ毀壞シ若シク

ハ被害スル罪ヲ六個ニ小分シ各輕重ノ差等ヲ設ケタリト雖モ損害ノ多少ハ物ノ性質ニ因リ豫メ一定スルコト能ハサルモノナレハ是等ハ裁判官ノ認定ニ委スルヲ以テ却テ罪情ニ相當スル處分ヲ爲スコトヲ得ヘキカ故ニ草案ニ於テハ刑ノ範圍ヲ擴張シテ是等ノ區別ヲ廢シタリ
而シテ文書及家屋等ノ以外ノ財物毀棄罪ニ在テハ損害ヲ與フルノ多少ハ豫メ之ヲ一定スルコトヲ得サルノミナラス場合ニ因リテハ殆ブト害ヲ生セサルコトアルヲ以テ草案ニ於テハ被害者ノ告訴ナクテハ害ノ生セサルモノト看做シ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルコト、爲シタリ
(第三百二十一條)

又自己ノ者ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權ヲ設定シ若クハ保險ニ付シタル者ヲ毀損スルトキハ其結果他人ノ財産權ヲ害スルニ至ルコトアル

ヲ以テ草案ニ於テハ之ヲ他人ノ所有物ト同一ニ論スルコト、爲シタ
リ(第三百二十二條)

文書毀棄

第三百十九條 官署又ハ公署ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ七年以下ノ懲
役ニ處ス

權利又ハ義務ニ關スル人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ三年以下ノ懲役
ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

(現)第二百三條第二項 其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

(現)第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者
ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス

家屋毀壞

第三百二十條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ不法ニ毀壞シタル者ハ五年
以下ノ懲役ニ處ス

諸物品毀損

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(現)第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五
年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ
處斷ス

第三百二十一條 前二條ニ記載シタルヨリ以外ノ物ヲ毀損傷害シタ
ル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴
ヲ待テ其罪ヲ論ス

(現)第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ圍池ノ裝飾又ハ田圃ノ範
圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處
シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一
日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ
處ス

(現)第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル
第二編 罪名 第十四章 財産ニ對スル罪 第四節 財産毀棄ノ罪 三三五

者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(現)第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

(現)第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(現)第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

自己ノ物

第三百二十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ク又ハ物權ヲ設定シ若ク

ハ保險ニ付シタルモノヲ毀損シタルトキハ第三百十九條乃至第三百二十一條ノ例ニ依ル

附 說

○違警罪ニ關スル規定ヲ删除シタルコト

現行刑法ハ其第二編及第三編ヲ以テ所謂重罪輕罪ニ關スル各犯罪ヲ規定シ各其種類ニ因テ之ヲ類別シタルモ獨リ第四編ニ至テハ單ニ違警罪トシテ拘留又ハ科料ニ處ス可キ一切ノ犯罪ヲ臚列シ其罪ノ種類如何ヲ問ハス之ヲ雜記シタリ斯ノ如ク罪ノ種類ヲ別タス單ニ拘留又ハ科料ノ刑ニ處ス可キ罪ナリトシテ之ヲ一編中ニ收メタルハ學理上其當ヲ得サルノミナラヌ法文ノ臚載ヲ失スルモノト謂ハサル可カラズ加之違警罪トシテ規定シタル各犯罪ノ中ニハ地方ノ狀況ニ因リ其規定ヲ異ニスルヲ以テ適當トスルモノアリ故ニ草案ニ於テハ拘留又ハ科料ノ刑ニ處ス可キ罪ト雖モ其種類ニ因リ輕罪トシテ之ヲ第二編ノ各罪中ニ編入シ其編入ス可カラサルモノハ特別法又ハ行政命令ノ規定ニ委ス可キコト、爲シタリ

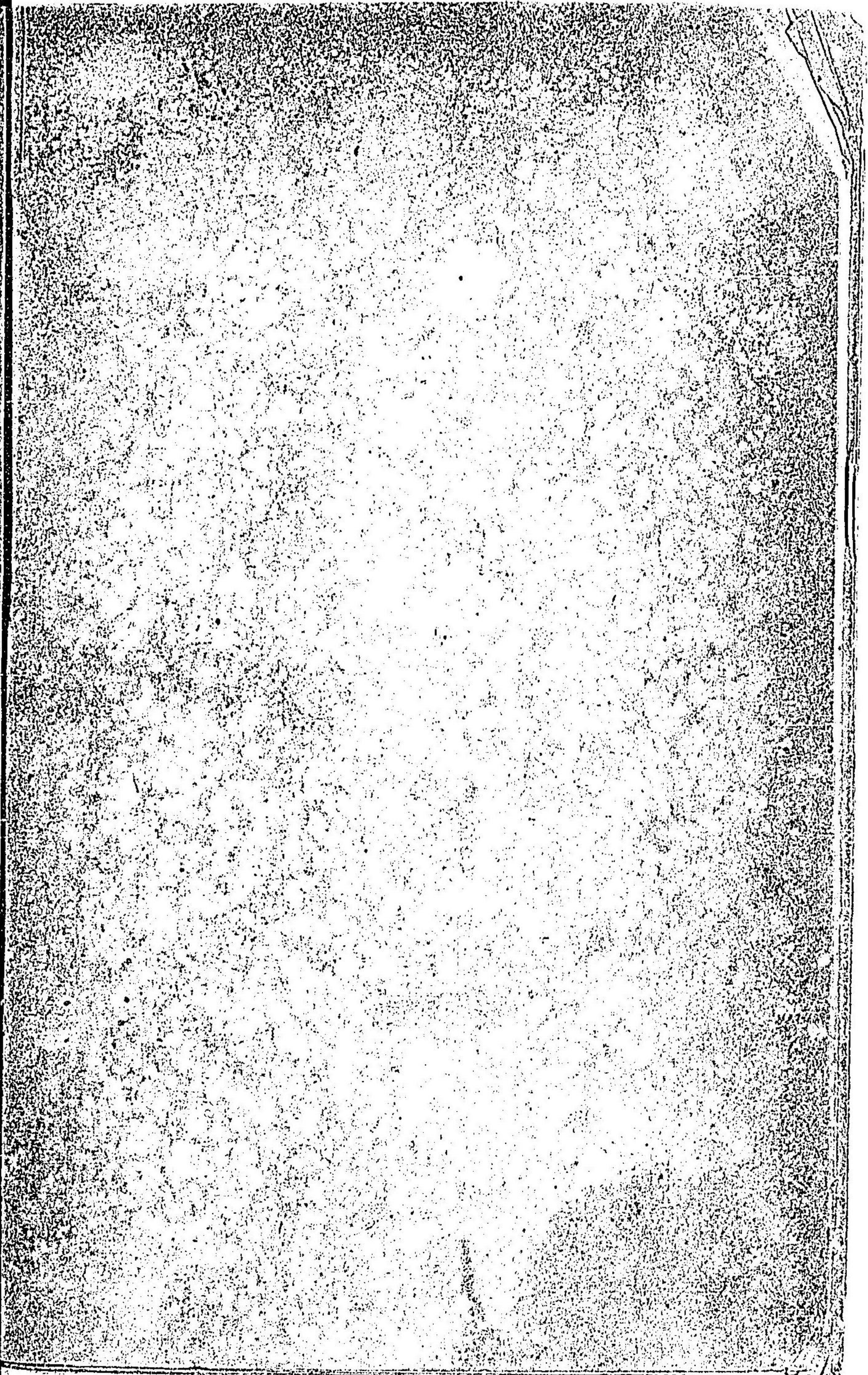
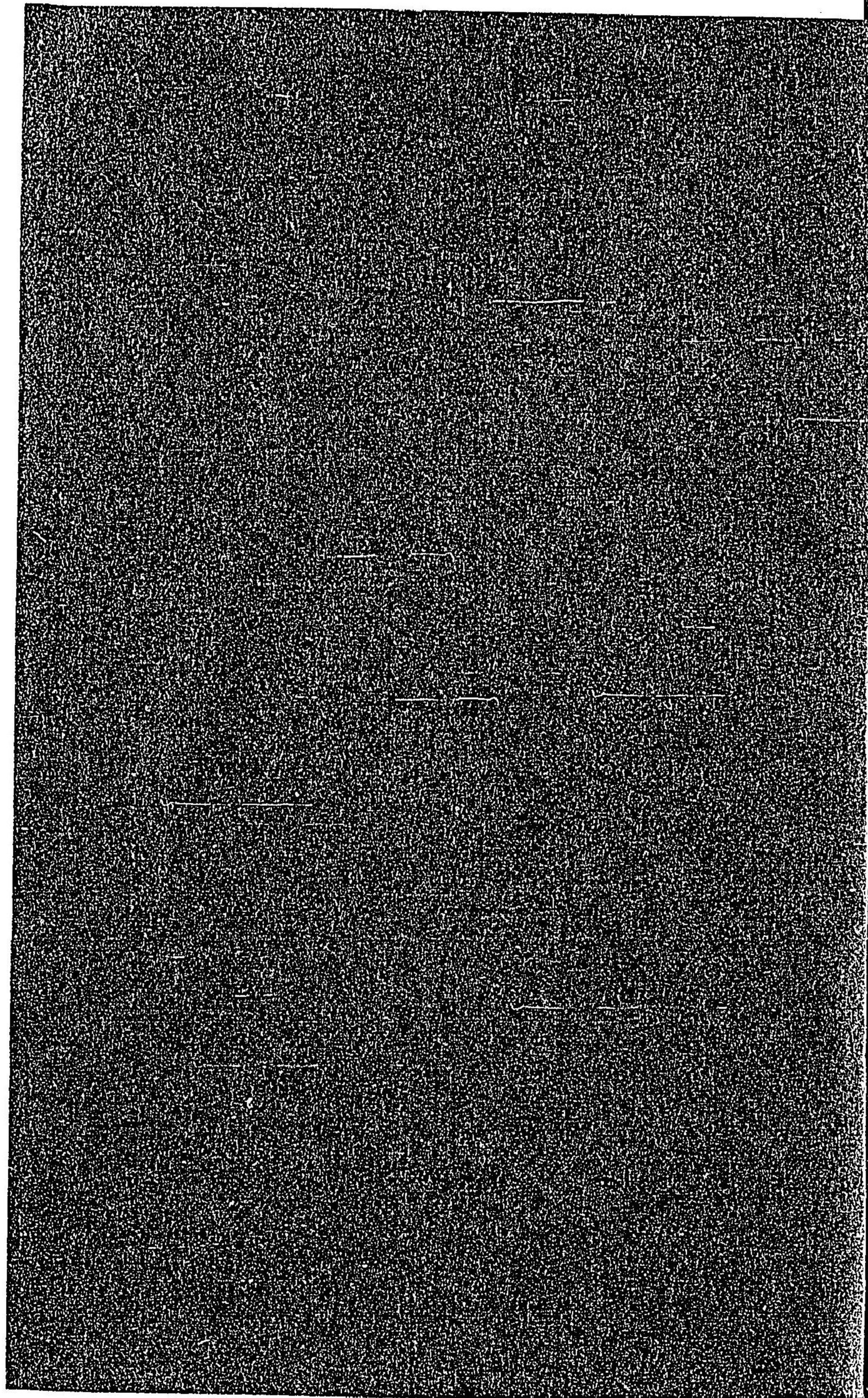
新舊
對照
刑法草案理由書

明治三十一年三月六日印刷
明治三十一年三月九日發行

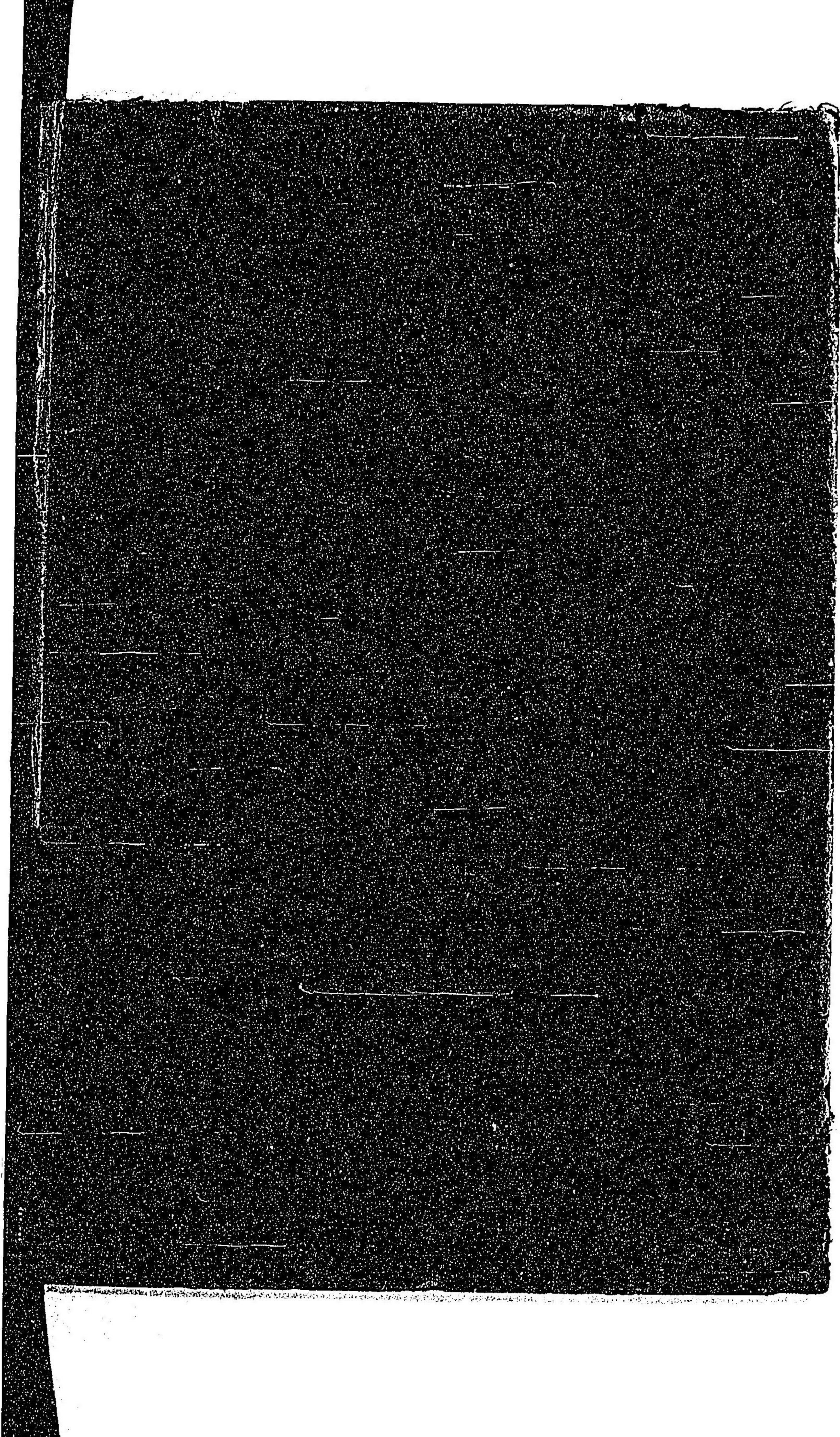
著者 著者 發行所 發行所 大賣捌 全全全

定價金六拾錢

東京市麴町區平町十二番地 瀧 正 氣
 東京市牛込區辨天町五十三番地 藤 次 郎
 東京市麴町區飯田町三丁目廿二番地 高 橋 篤 行
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 佐 久 間 衡 治
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地 株 式 英 舍 工 場
 東京市麴町區飯田町三丁目廿二番地 會 社 秀 英 舍 工 場
 東京市神田區表神保町一番地 奎 章 堂
 神田區裏神保町七番地 八 尾 書 店
 日本橋區通三丁目 明 法 書 堂
 神田區一ツ橋通町七番地五號地 丸 善 株 式 會 社
 有 斐 閣 書 房



80
6



80

6

035765-000-1

80-6

刑法草案理由書

溝淵 正氣

藤田 次郎 / 著

M31

BBP-0351



